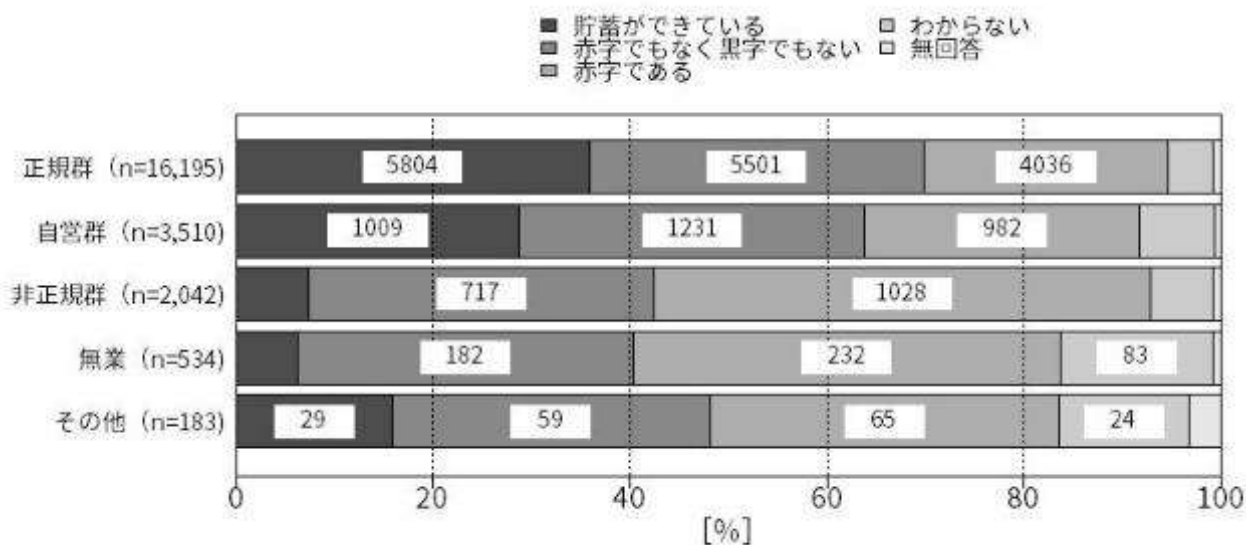


<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

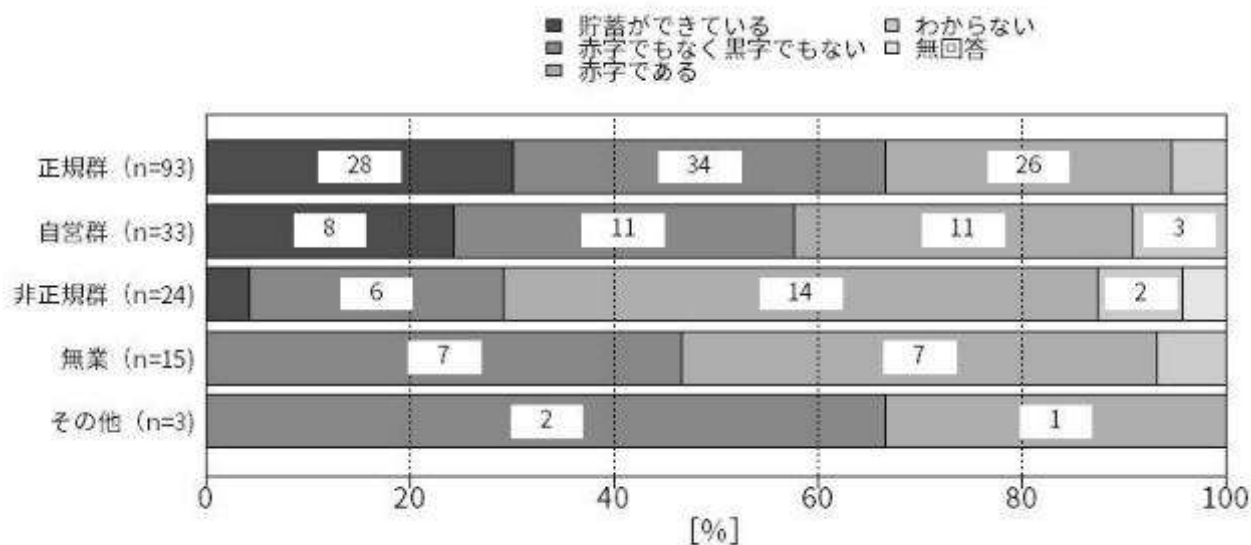


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、30.1%、24.2%であったが「非正規群」では4.2%だった。「赤字である」と回答した人は正規群でも28.0%であり、非正規群では58.3%であった。

## <雇用に関する考察>

本調査では、雇用形態が、所得階層の分布に反映されていることが示されている。すなわち、中央値以上の群では、正規雇用が 79.2%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では、25.0%にとどまっている。なお、正規雇用であるにもかかわらず困窮度Ⅰの群になるという点は、ワーキングプアの問題や他の問題を示唆している可能性があり、更なる調査が求められる点であろう。

結果からは、困窮度が高い群ほど学歴が低い傾向がみられた。中卒、高校中退の割合をみると、父親の場合、中央値以上の群では中学卒が 1.6%、高校中退が 6.3%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では中学卒が 6.5%、高校中退は 8.7%、母親の場合、中央値以上の群では中学卒が 4.7%、高校中退が 3.1%であったのに対して、困窮度Ⅰの群では中学卒が 10.9%、高校中退は 6.5%であった。なお、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高くなっていた。

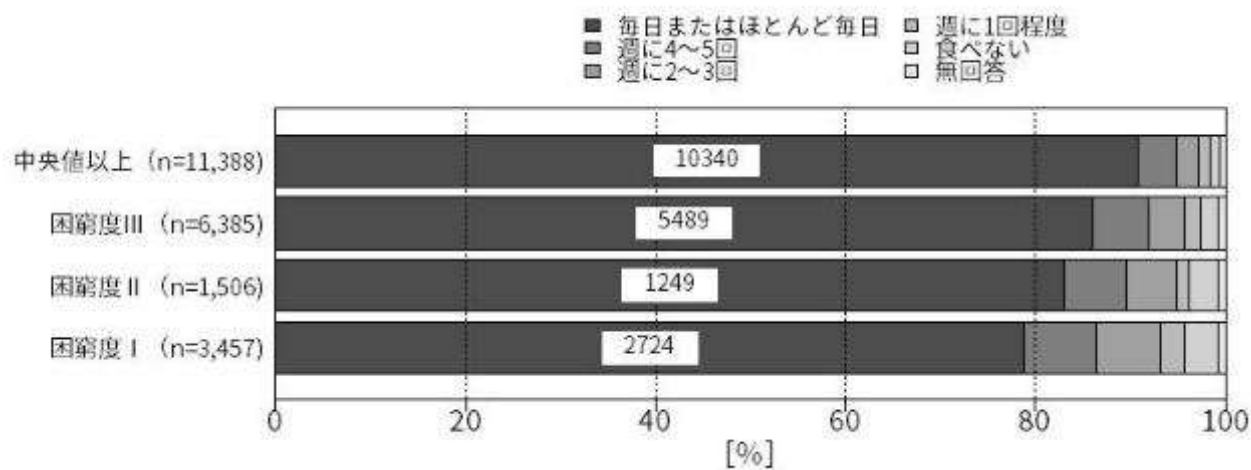
世帯構成と就労状況の関係を見ると、ふたり親世帯と比べて、母子世帯では非正規雇用の割合が高くなる。ふたり親世帯における非正規雇用の割合は5%未満であるのに対し、母子世帯は 39.6%であった。困窮度Ⅰの群に属する世帯では、主たる生計維持者が母親である場合が最も多かった。

さらに、正規雇用の世帯の群の 30.1%では貯蓄ができると回答したのに対して、非正規雇用の群で貯蓄ができると回答した世帯は 4.2%にとどまり、半数以上が赤字と回答している。

### 3-3. 健康

#### 困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

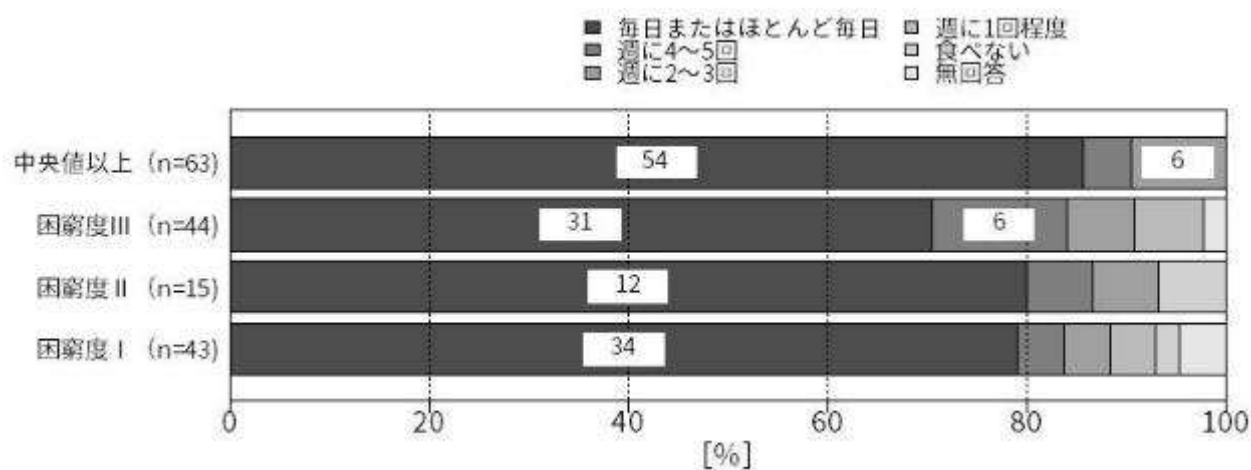
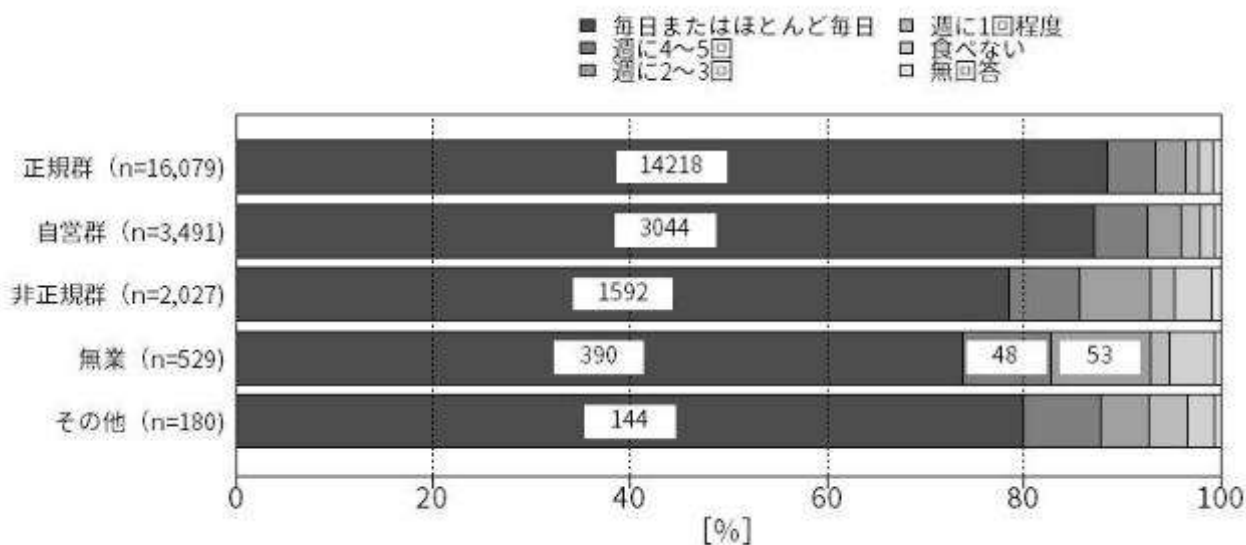


図 180. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、2.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票 問5(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

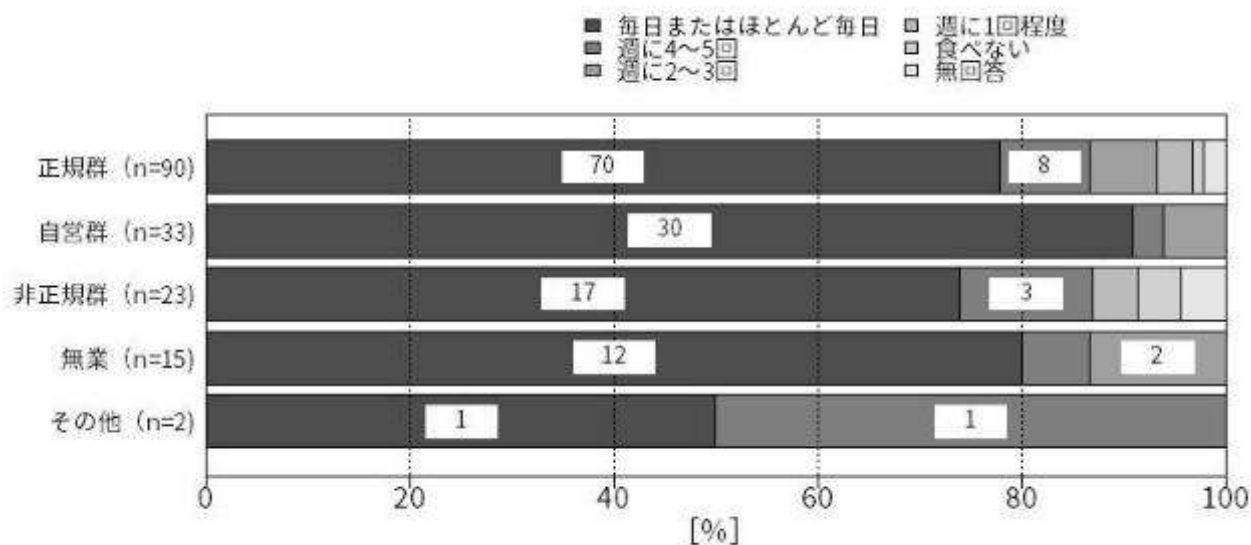
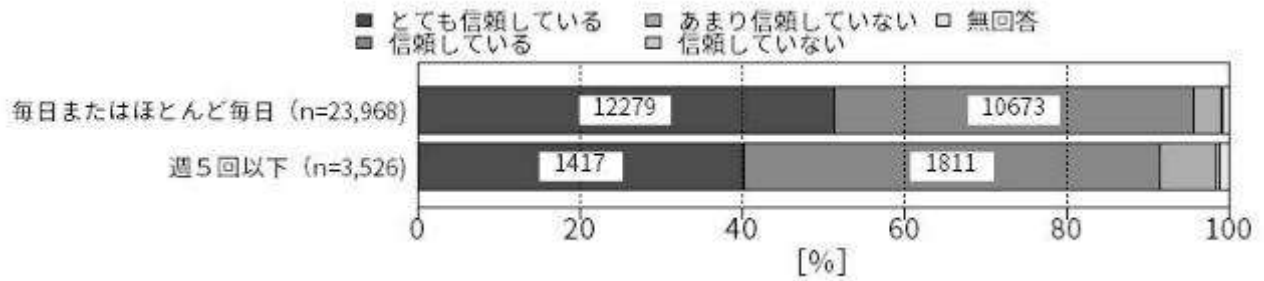


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で 77.8%、「自営群」で 90.9%、「非正規群」で 73.9%、「無業」で 80.0%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）  
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

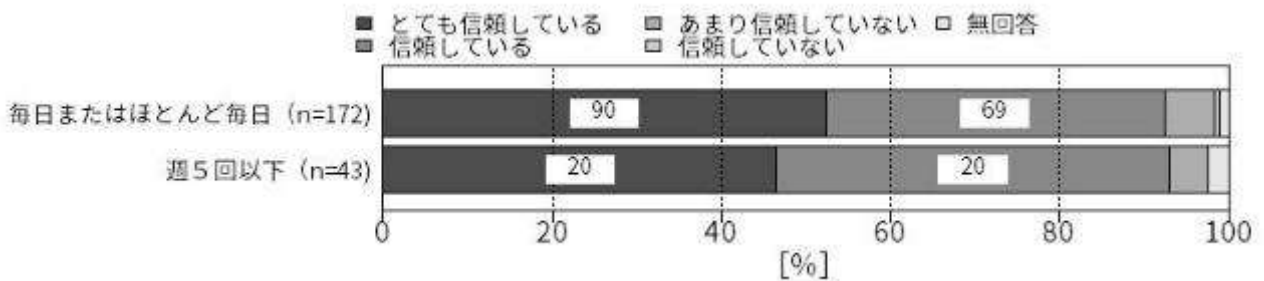
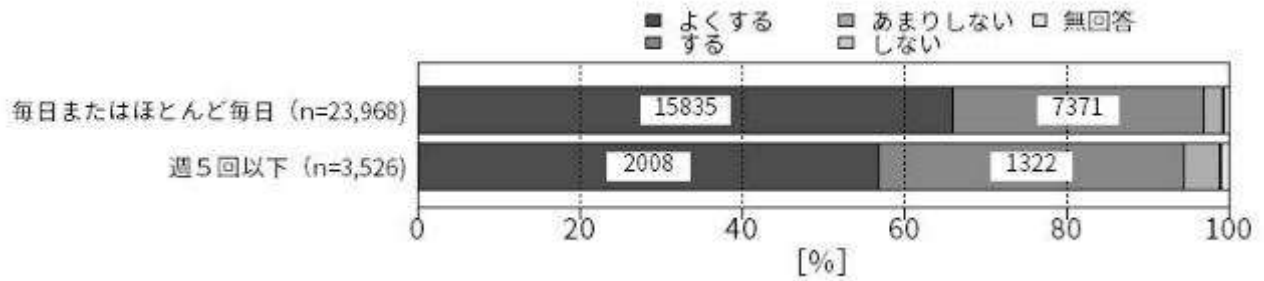


図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 52.3%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 46.5%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）  
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

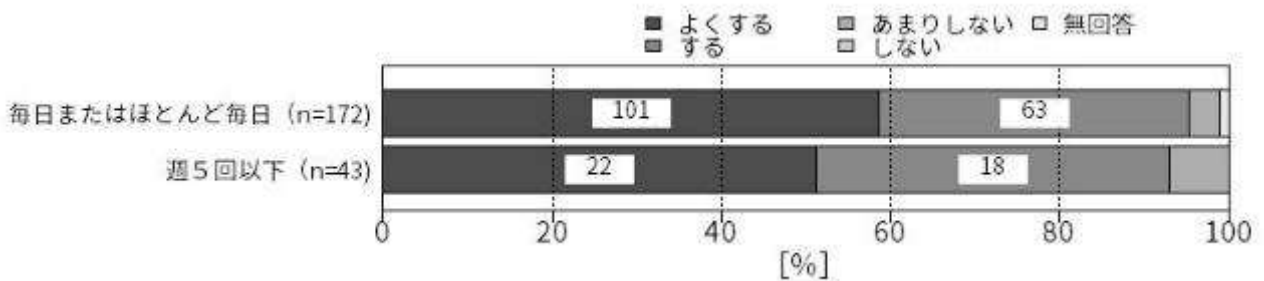
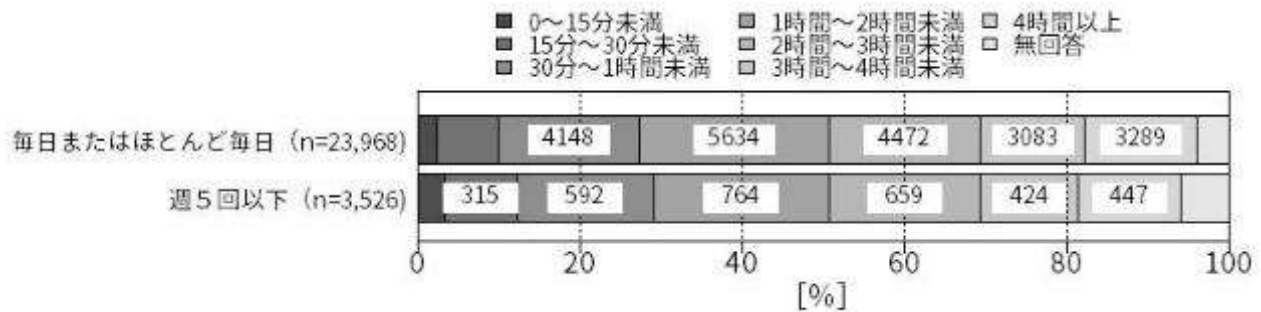


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 58.7%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 51.2%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））  
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

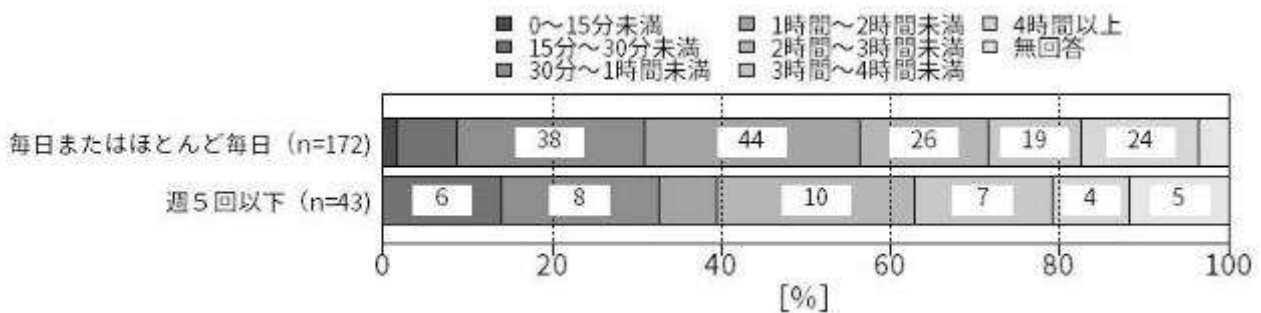
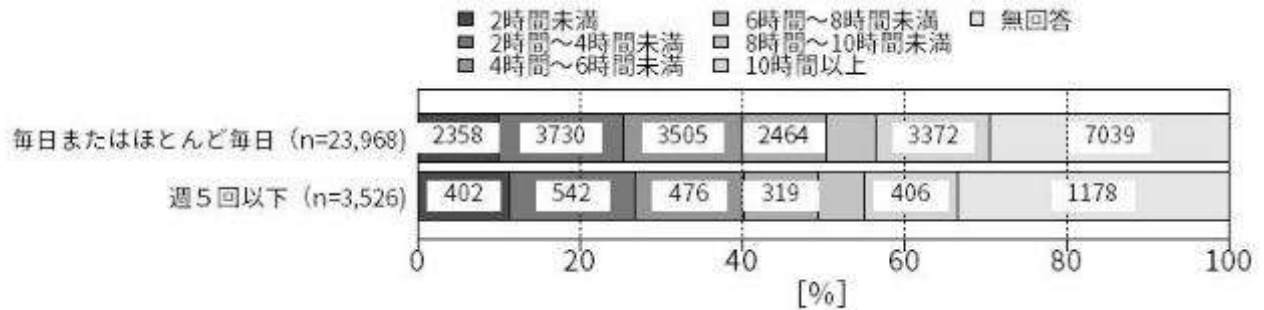


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり  
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人のほうが「週5回以下」の人よりも「30分～1時間未満」「1時間～2時間未満」と回答したの割合が高くなる傾向にある。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））  
（子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

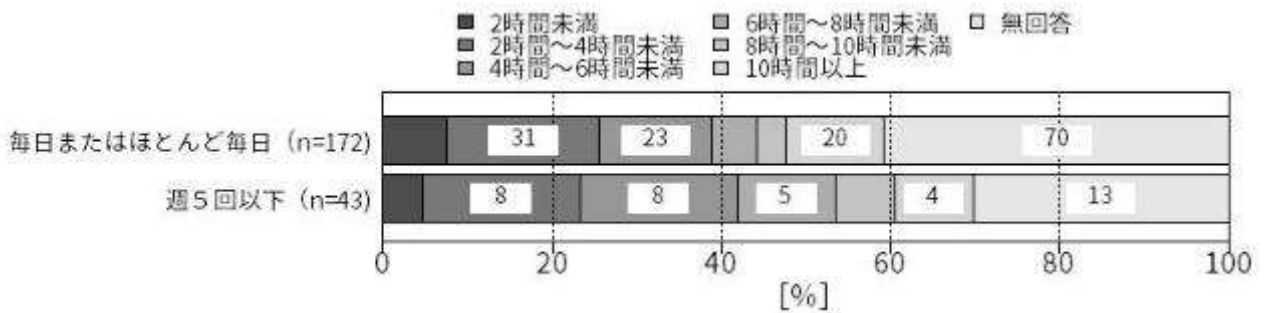


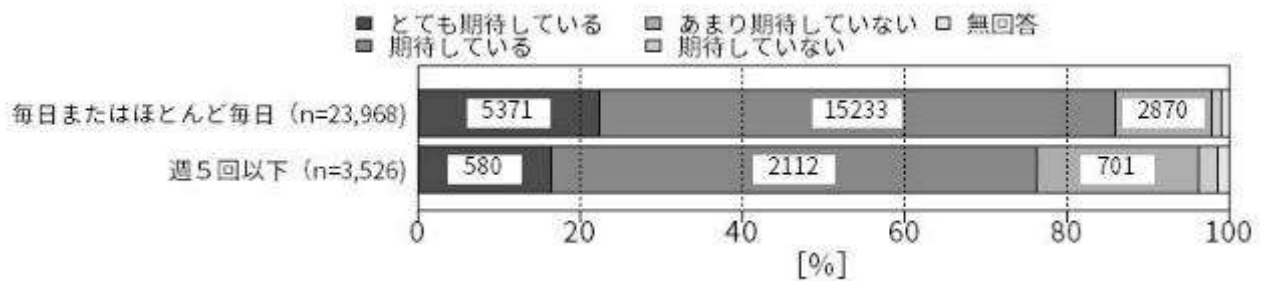
図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり  
（子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、無回答の割合が共に高くなる傾向にある。



朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）  
 （子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

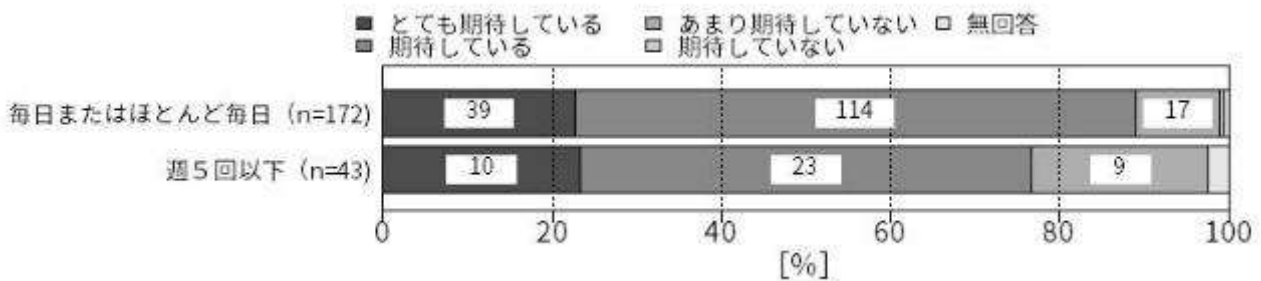


図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

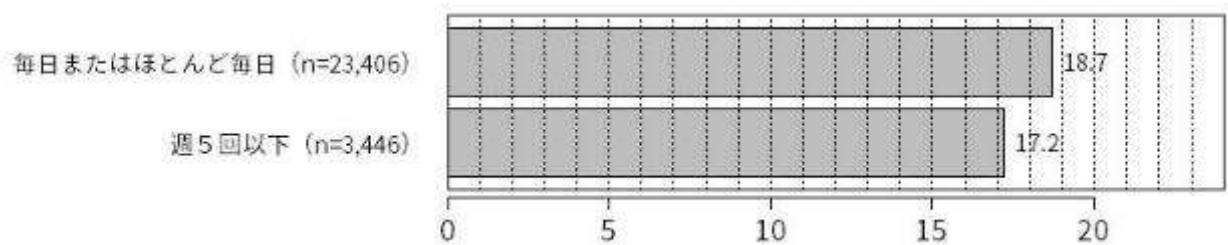
朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、89.0%であったのに対して、「週5回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて76.8%であった。

### 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 5(1) × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

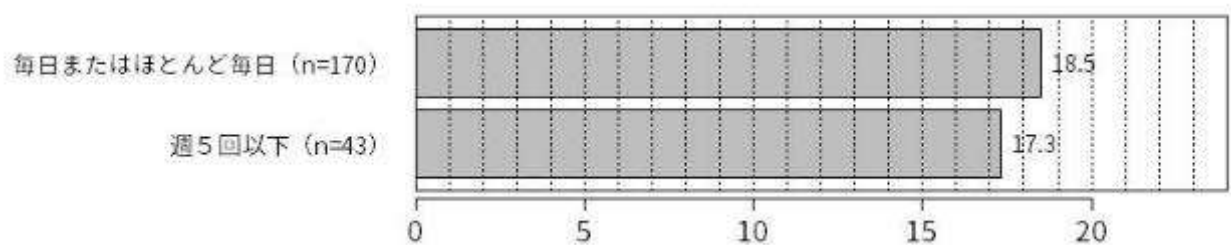
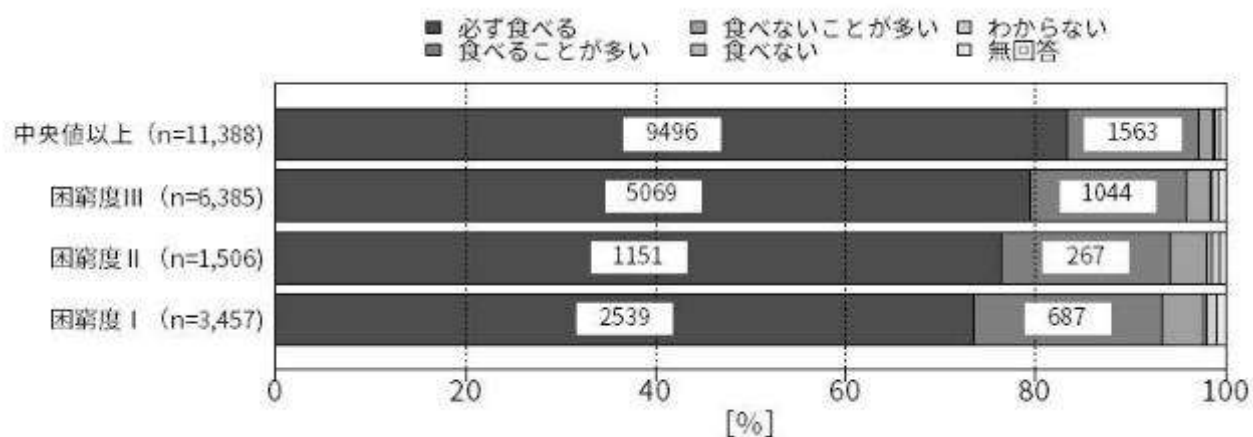


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.5 点であったのに対して、「週 5 回以下」では、17.3 点であった。

困窮度別に見た、昼食の頻度（子ども票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

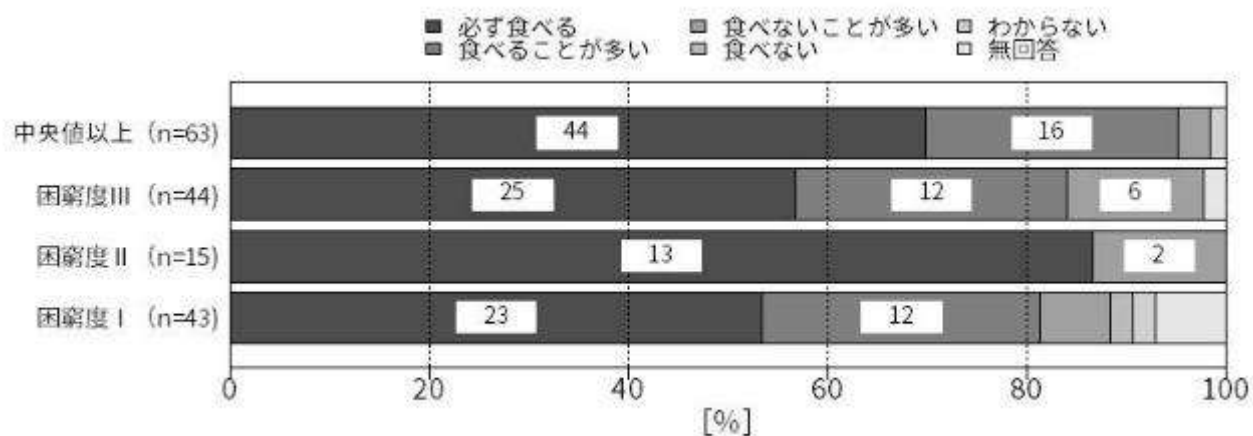
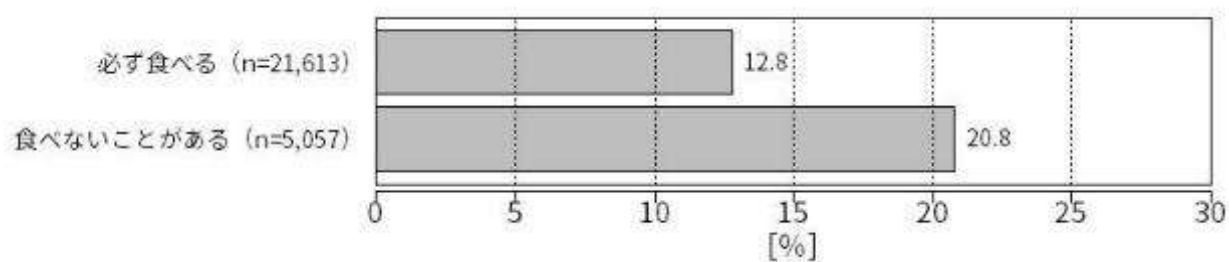


図 188. 困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 69.8%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 86.7%、困窮度Ⅰ群では 53.5%であった。

昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合（子ども票 問7 × 子ども票 問22）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

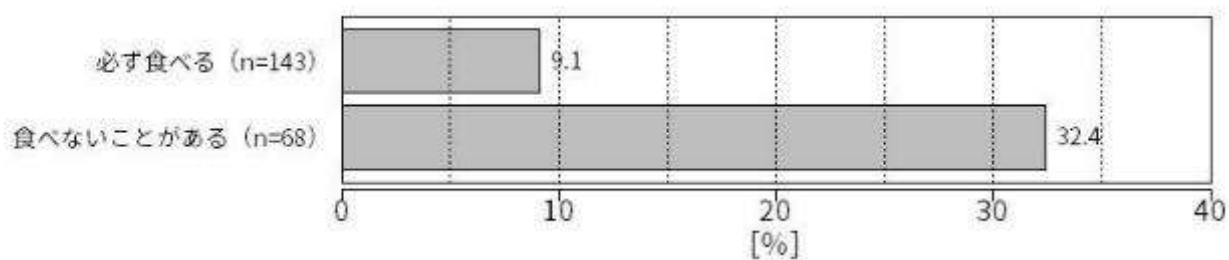


図 189. 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

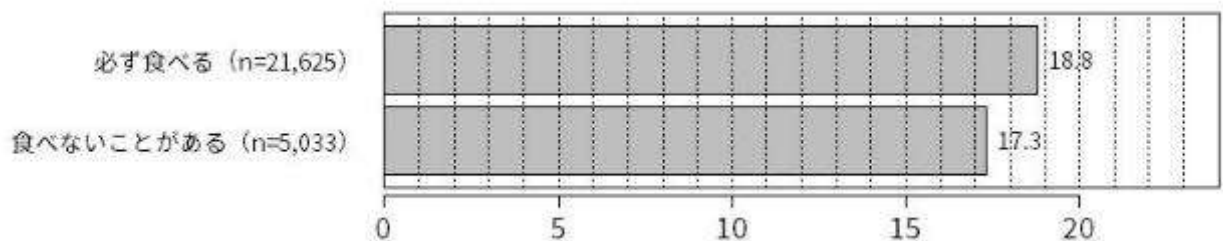
昼食を食べない群では、「相談しない」と答えた割合が 32.4%であった。

### 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

(子ども票 問 7 × 子ども票 問 26(1)～(6))

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

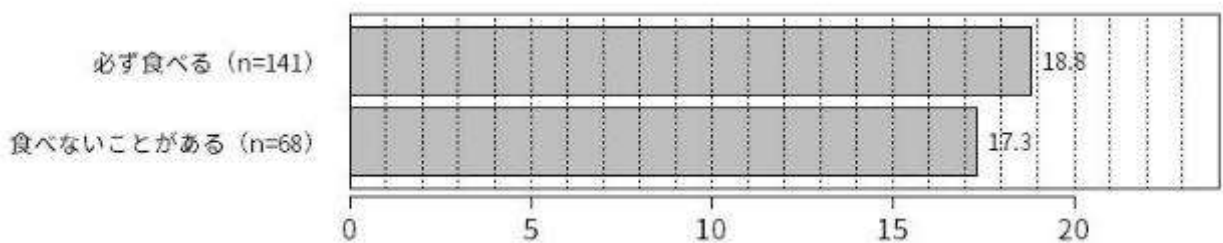
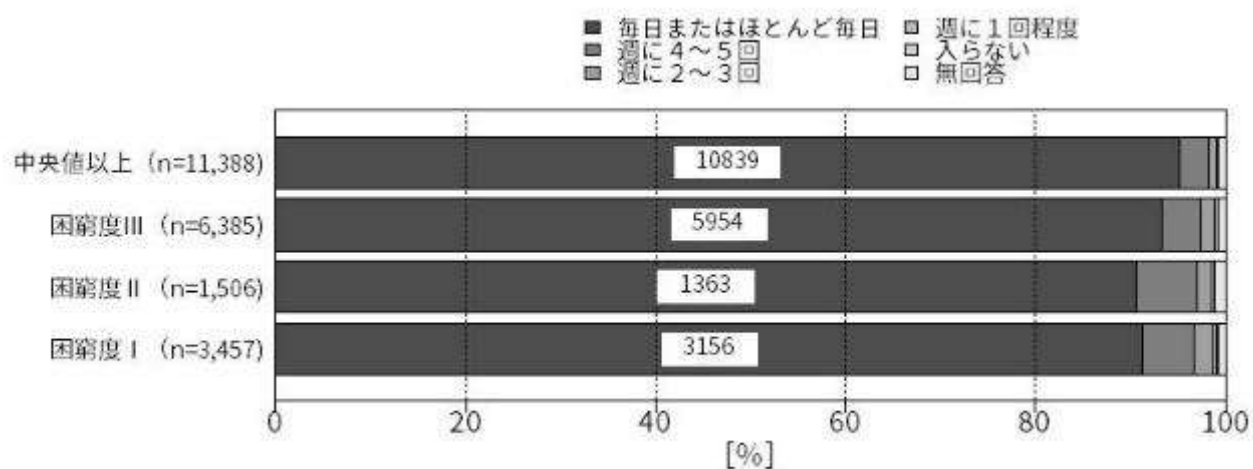


図 190. 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が 18.8 点であったのに対して、「食べないことがある」と回答した人は 17.3 点であった。

困窮度別に見た、入浴頻度（子ども票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

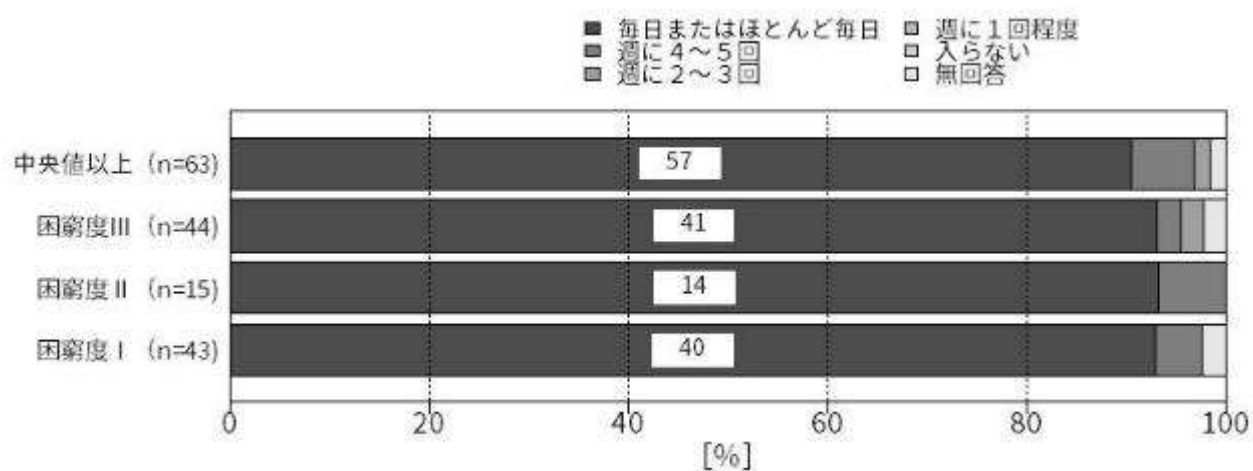
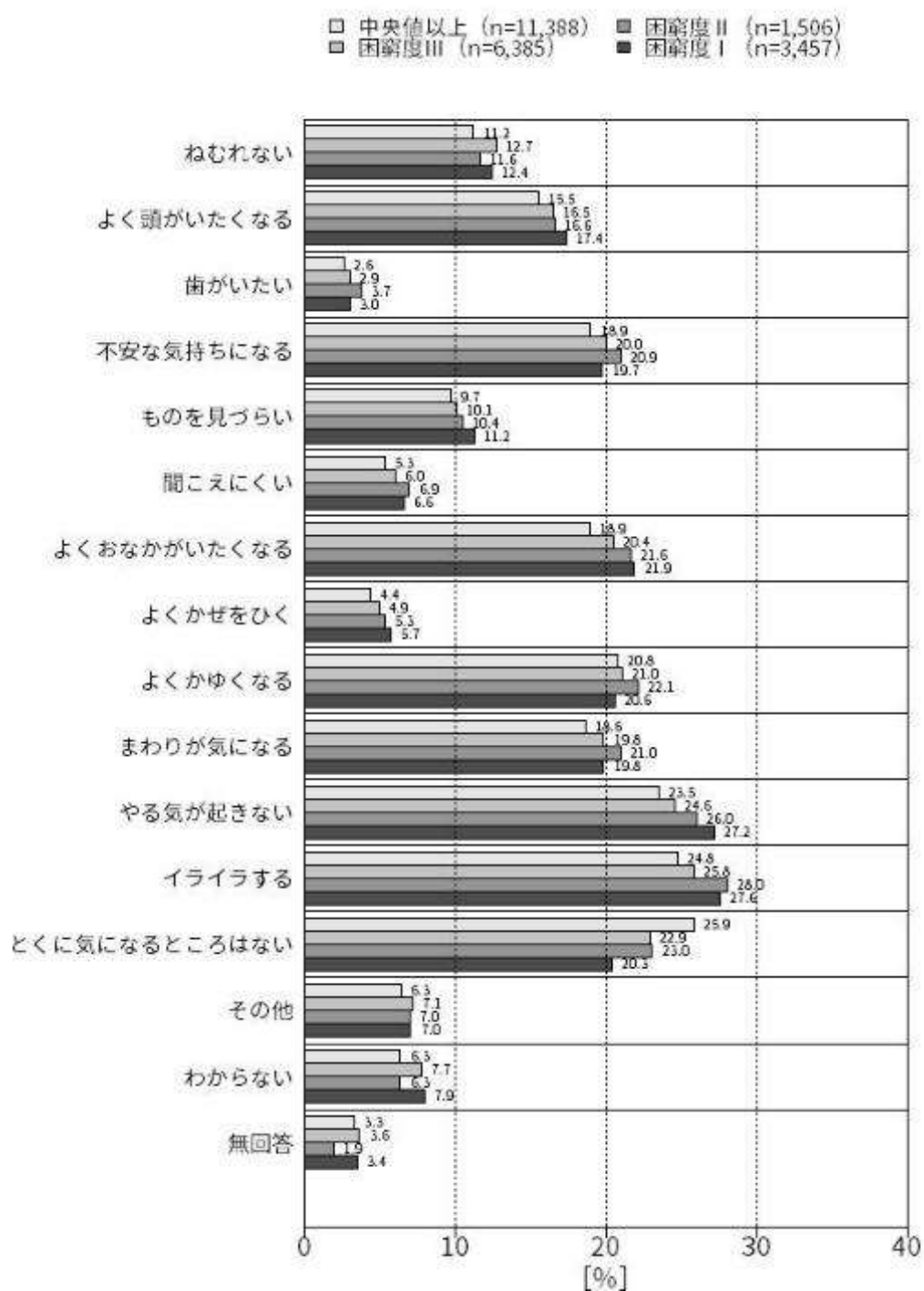


図 191. 困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度別に入浴頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合は中央値以上群では 90.5%、困窮度Ⅰ群では 93.0%であった。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（子ども票 問 24）

<大阪市 24 区>



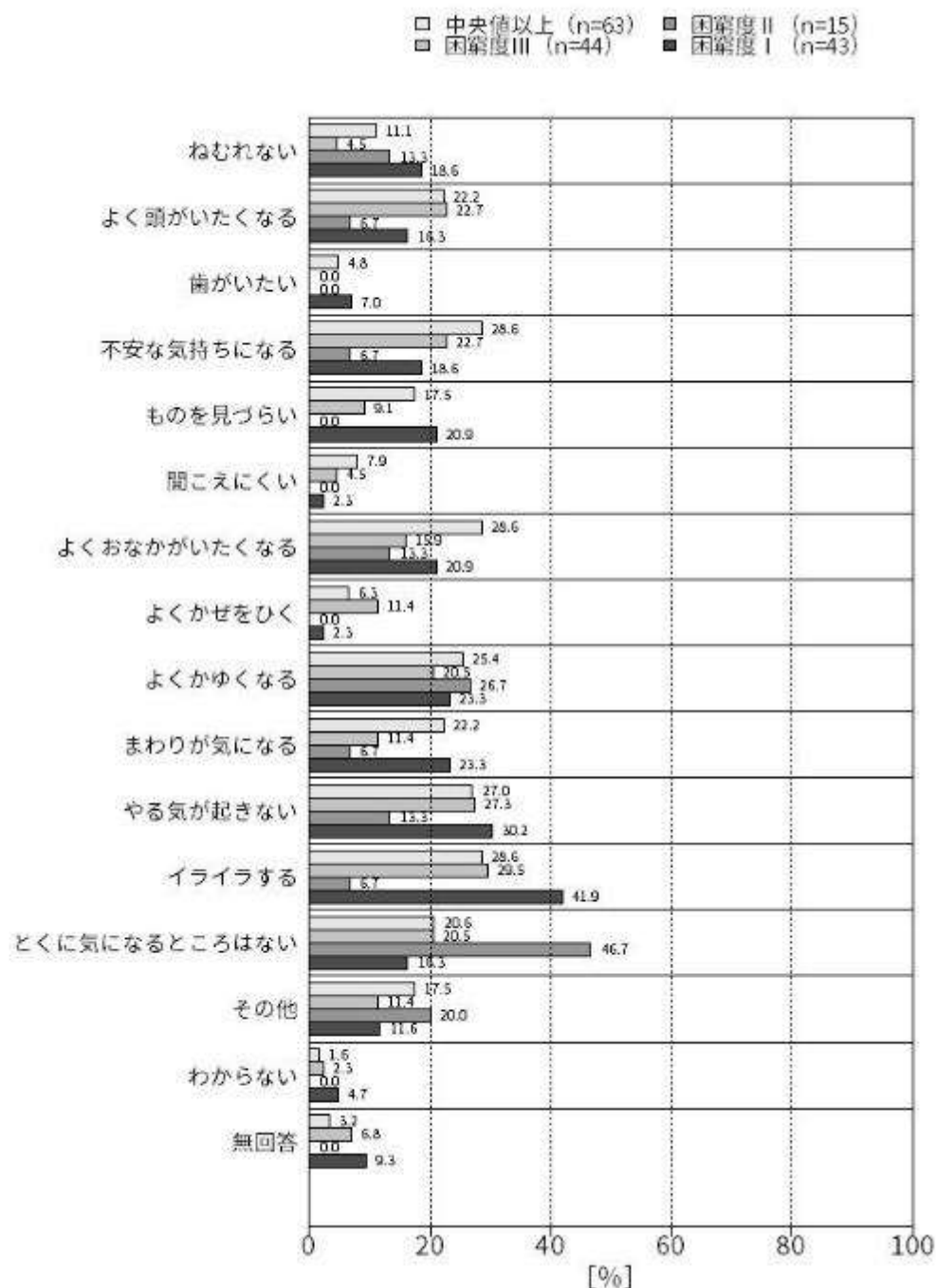


図 192. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

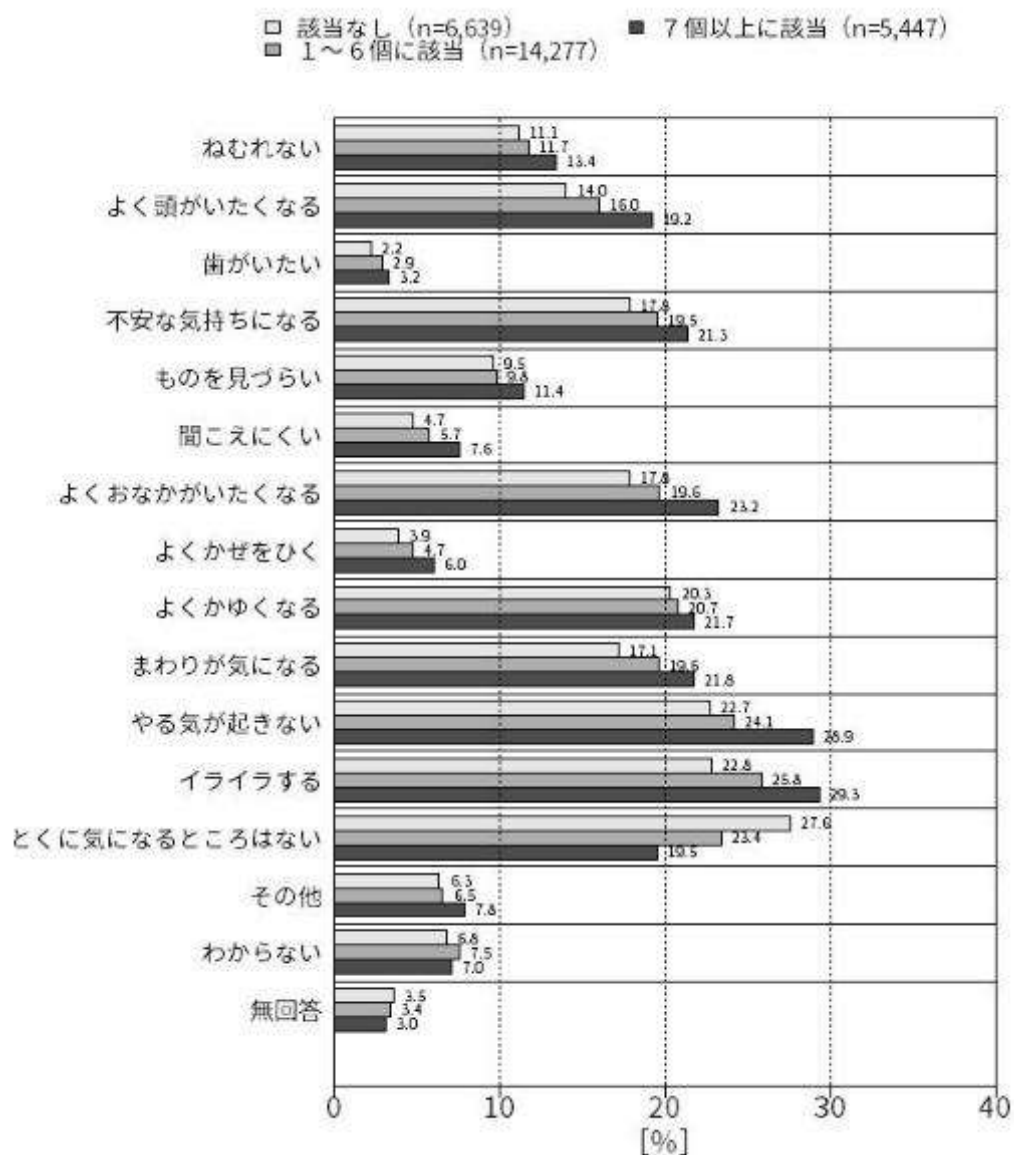
困窮度別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」18.6%（中央値以上群に対して、1.7倍）、「イライラする」41.9%（1.5倍）、「歯がいたい」7.0%（1.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。さらに、中央値以上群と上記の項目ほどの差はないものの、困窮度Ⅰ群では、「やる気が起きない」30.2%（1.2倍）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。



経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問7 × 子ども票 問24)

<大阪市24区>



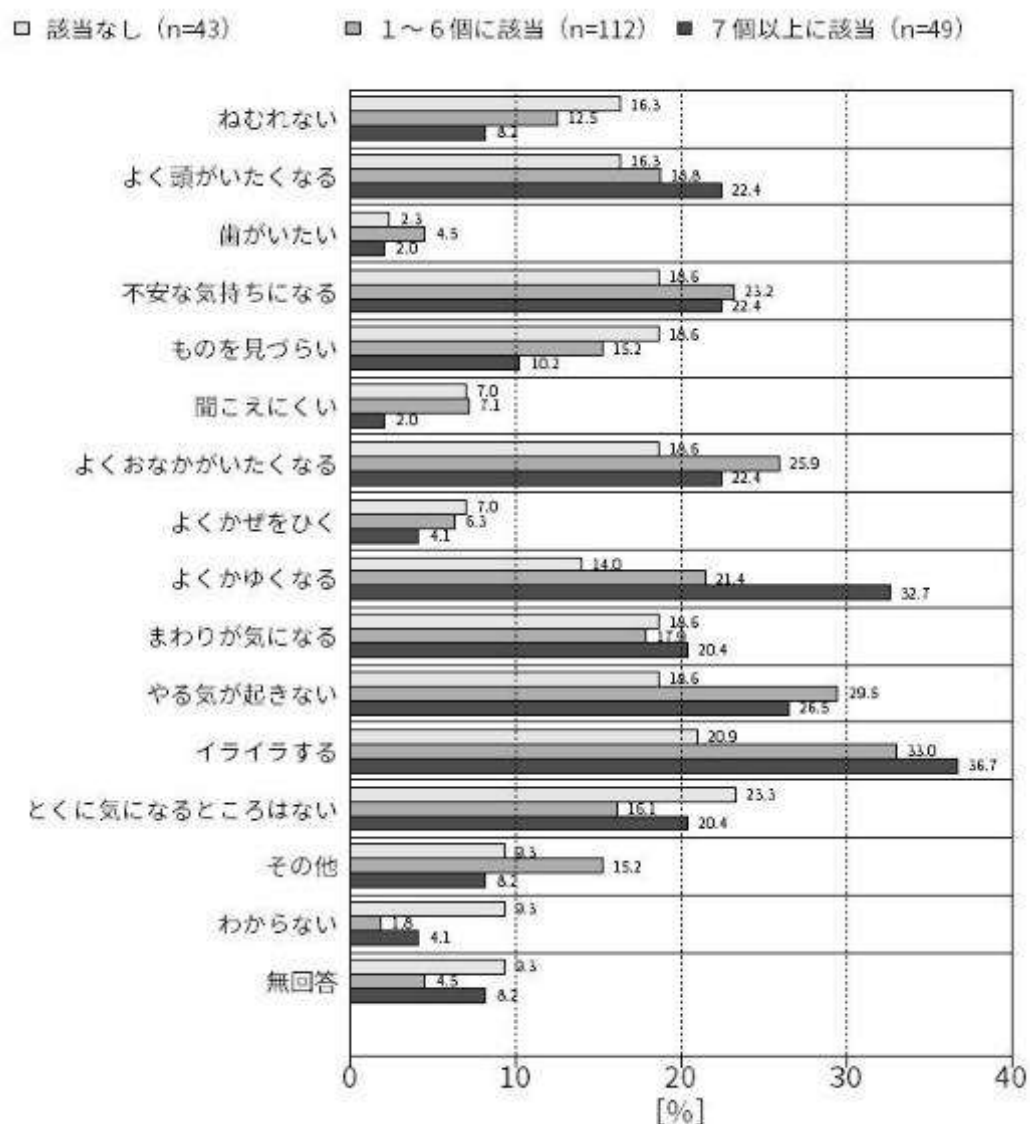
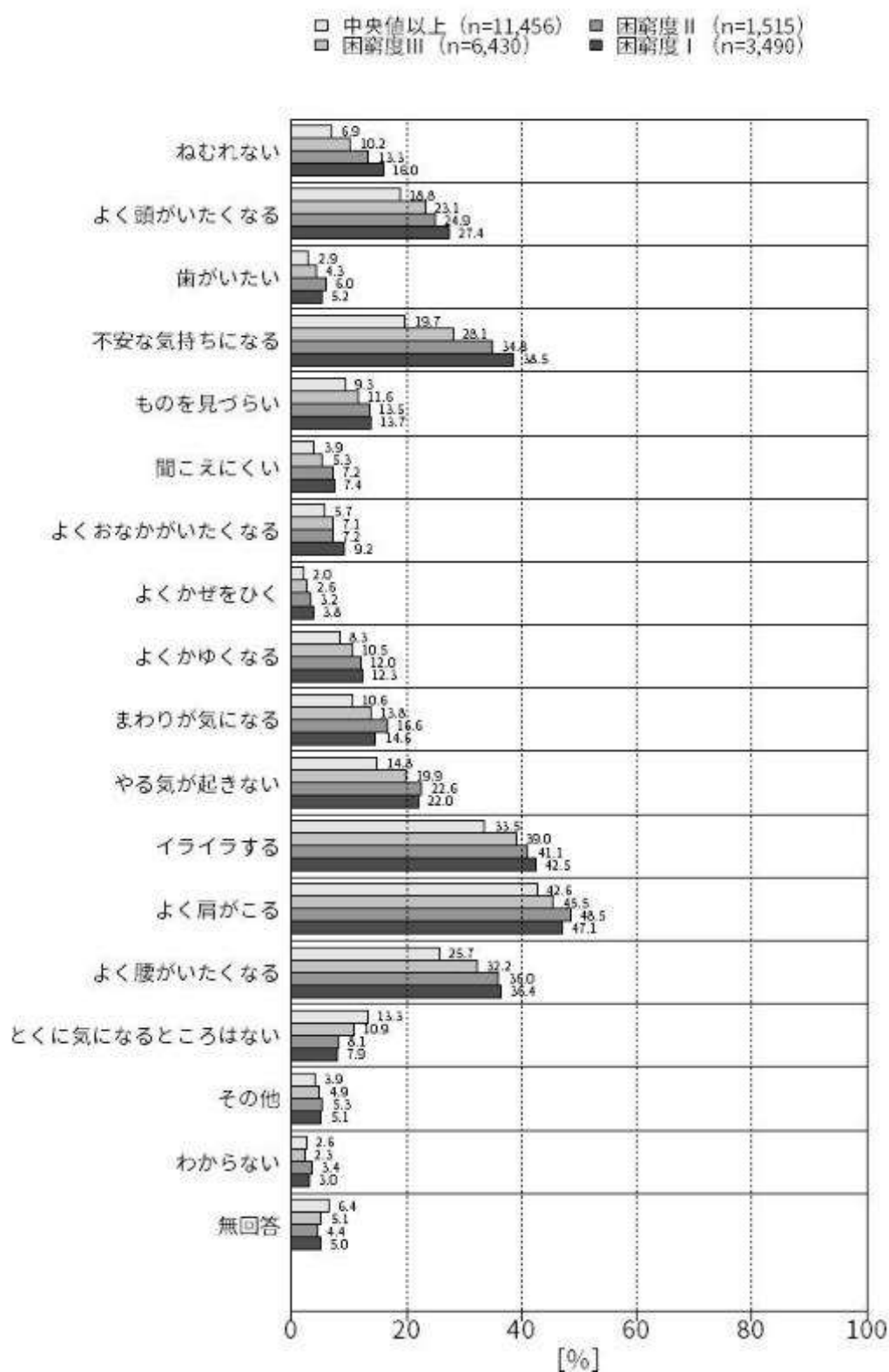


図 193. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「よくかゆくなる」32.7%（「該当なし」に対し2.3倍）、「イライラする」36.7%（1.8倍）、「やる気が起きない」26.5%（1.4倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「よく頭がいたくなる」22.4%（1.4倍）、「不安な気持ちになる」22.4%（1.2倍）、など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票 問 26）

<大阪市 24 区>



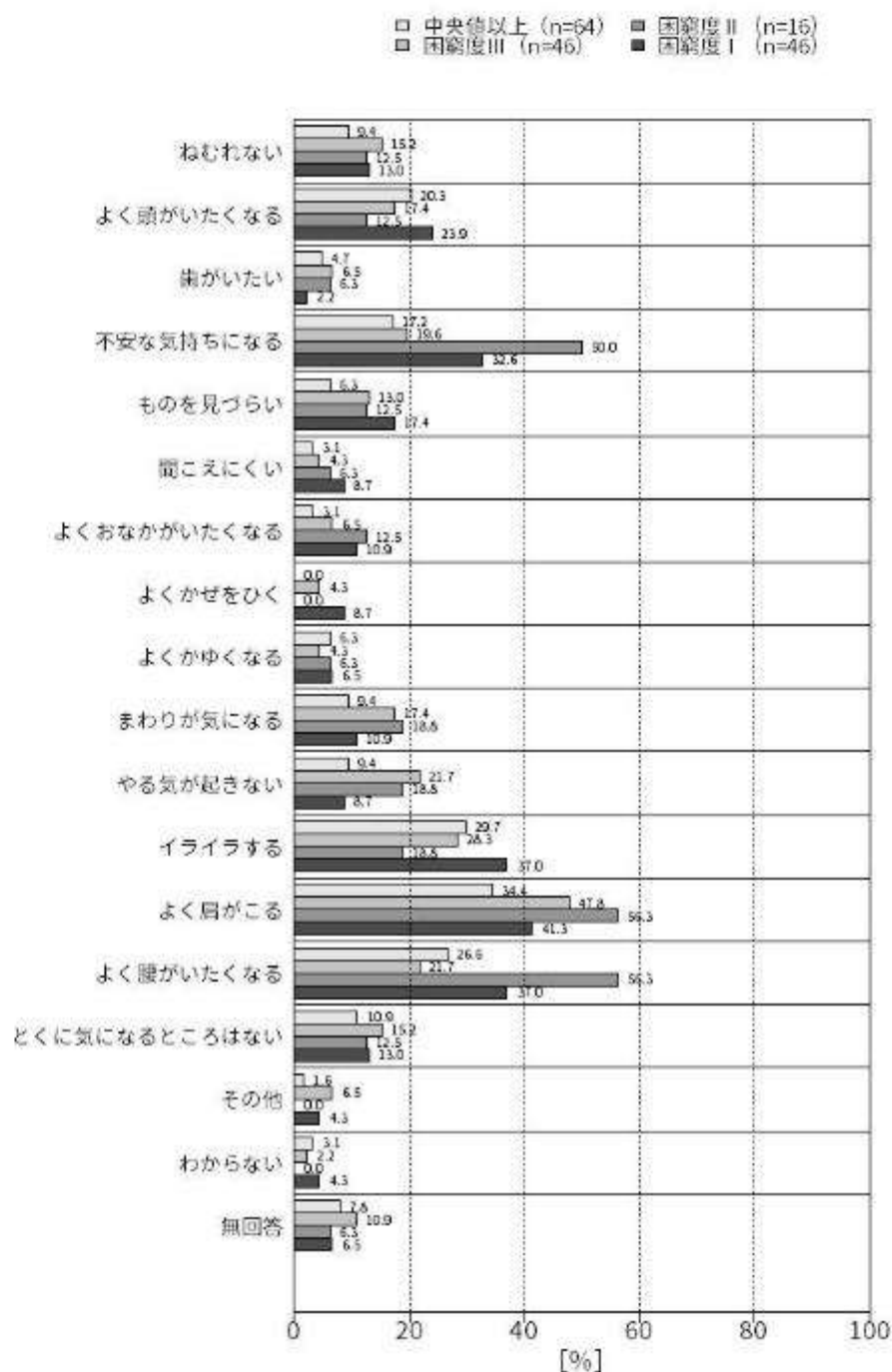


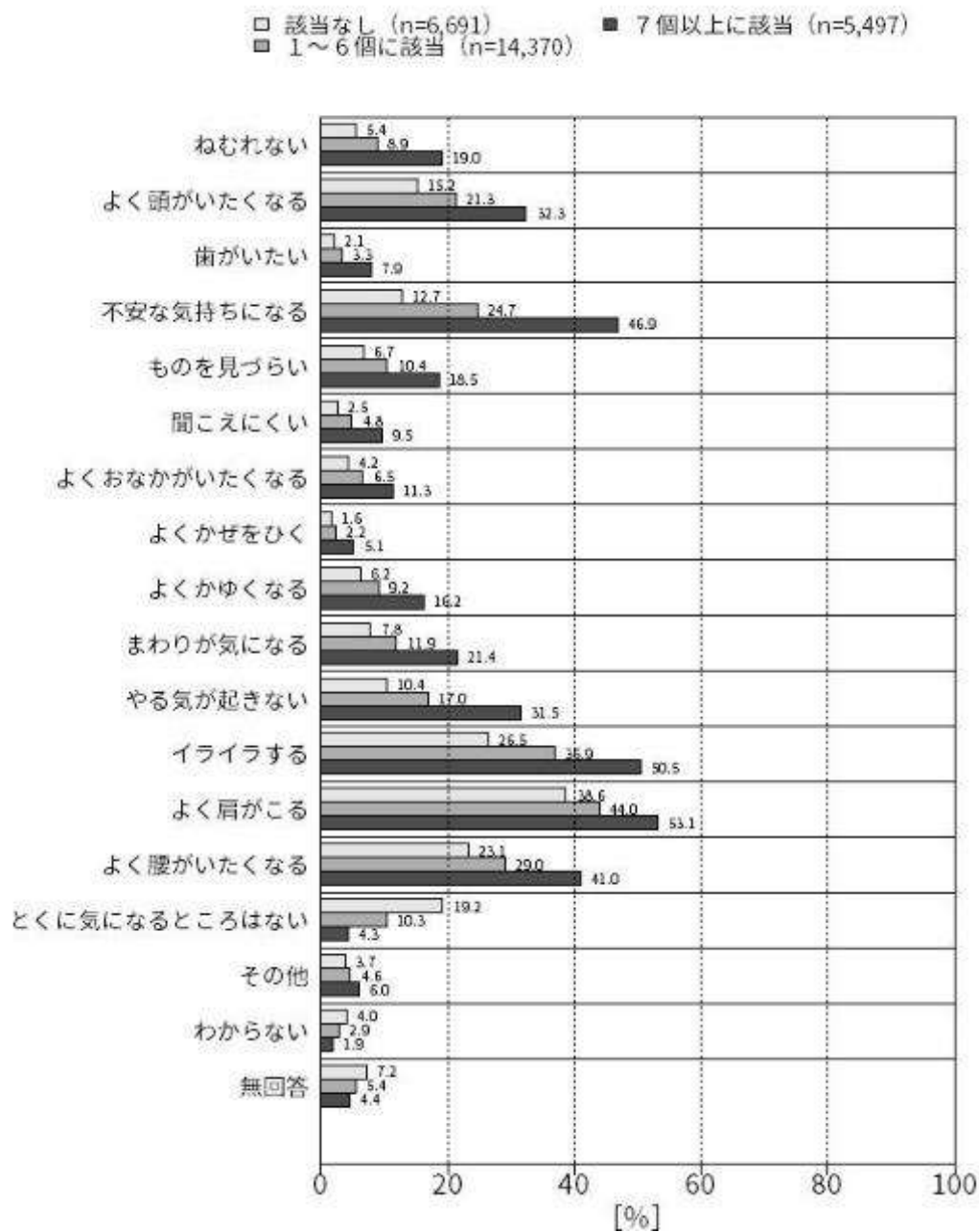
図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくおなかがいたくなる」10.9%（中央値以上群に対して、3.5倍）、「聞こえにくい」8.7%（2.8倍）、「ものを見づらい」17.4%（2.8倍）となっている。つづいて、「不安な気持ちになる」32.6%（1.9倍）、「よく腰がいたくなる」37%（1.4倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

(保護者票 問 7 × 保護者票 問 26)

<大阪市 24 区>



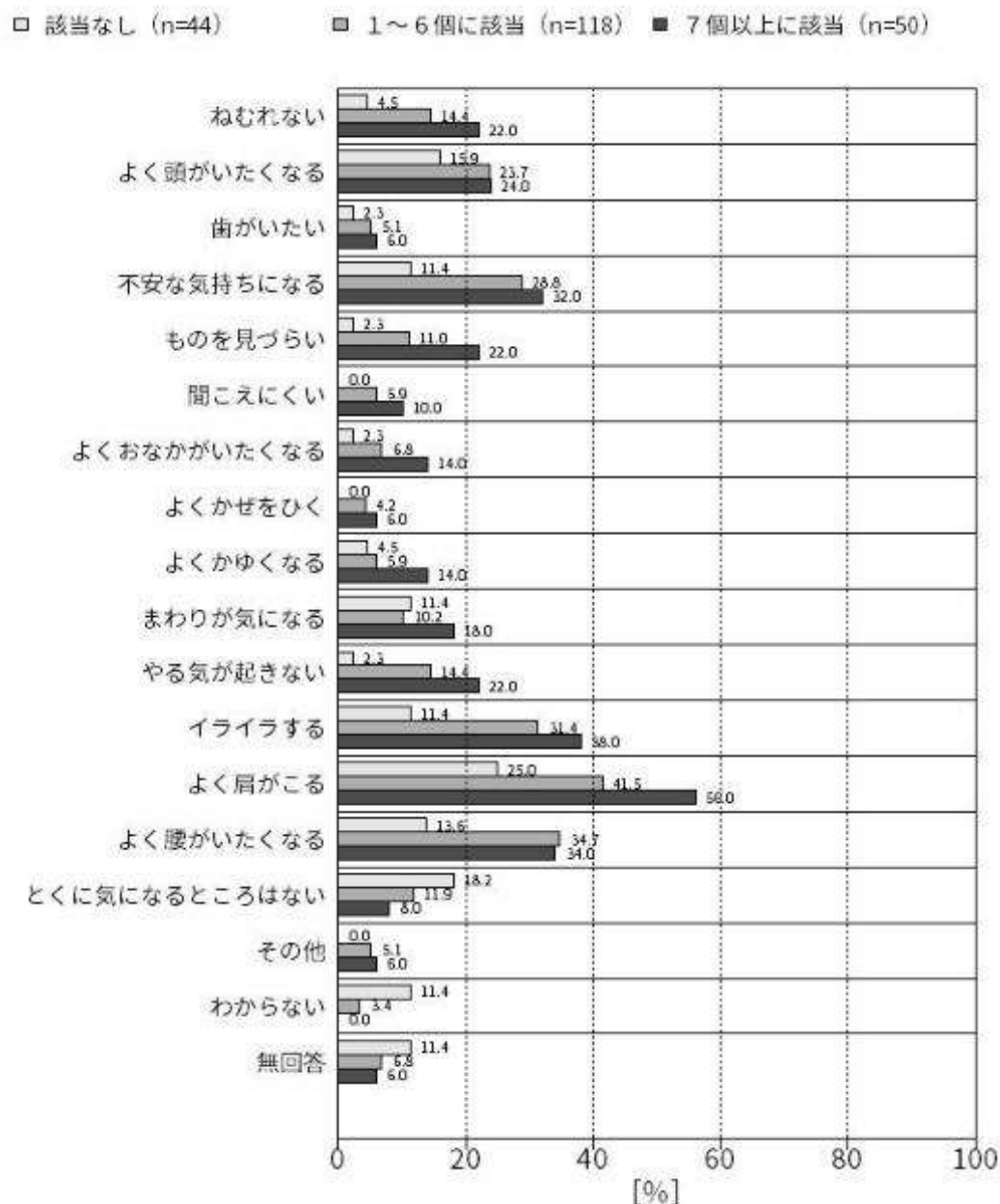
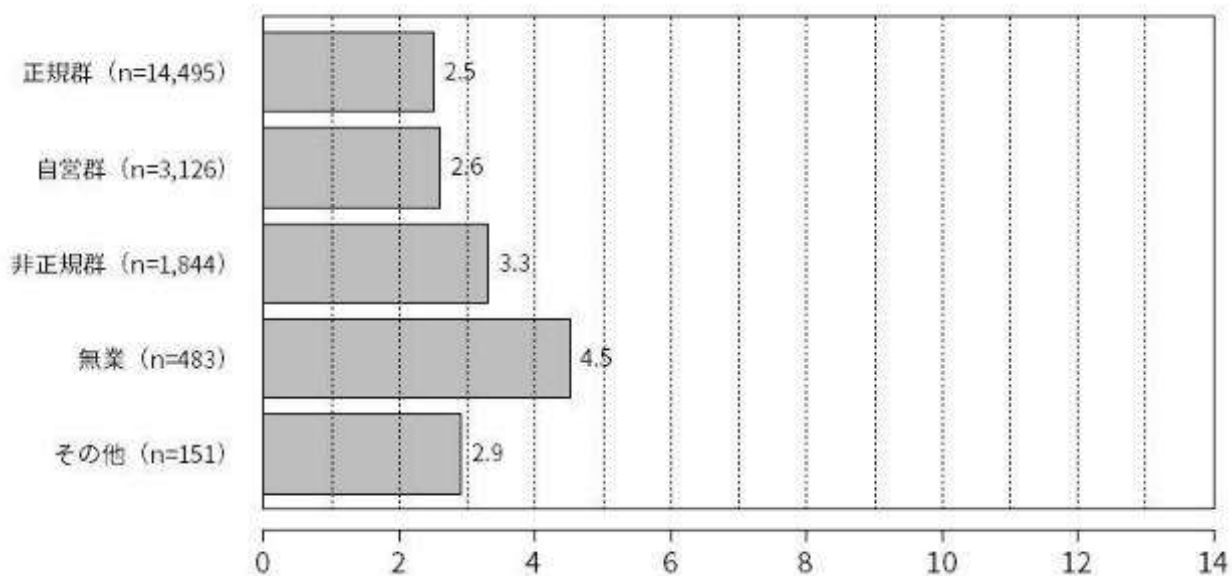


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上に該当」群の数値を挙げると、「やる気が起きない」22%（「該当なし」に対し9.6倍）、「ものを見づらい」22%（9.6倍）、「よくおなかがいたくなる」14%（6.1倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「7個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」38%（3.3倍）、「やる気が起きない」22%（9.6倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

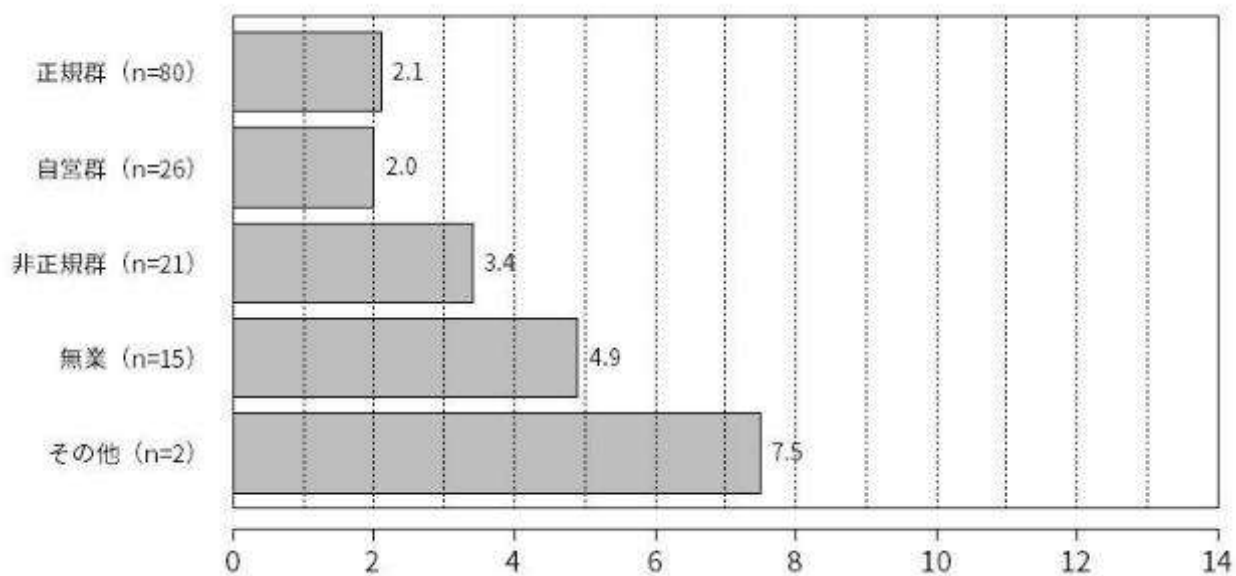


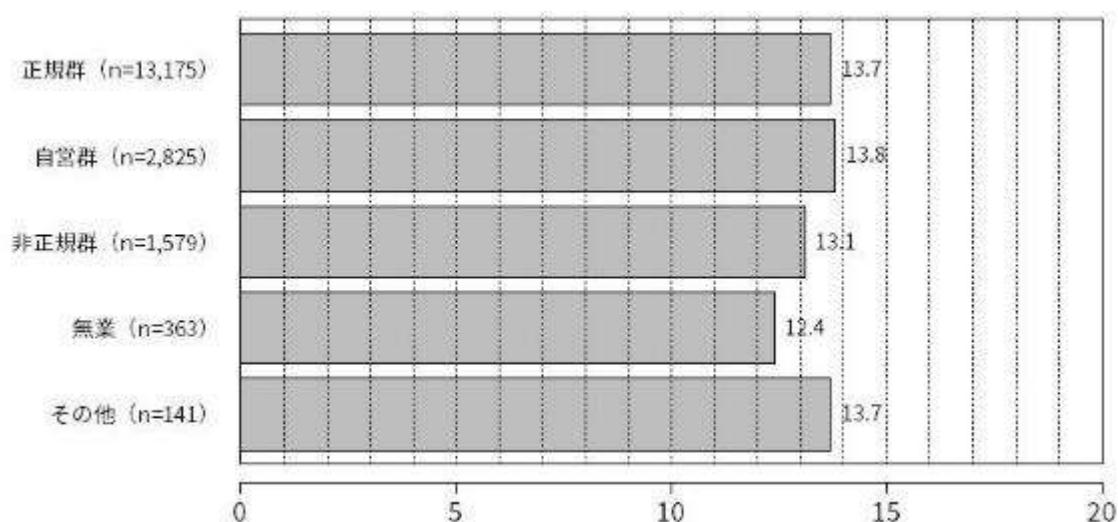
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.1 個、「自営業」では 2.0 個、「非正規群」では 3.4 個、「無業」群では 4.9 個であった。

就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票 問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の5項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの4段階で評価させ、5項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

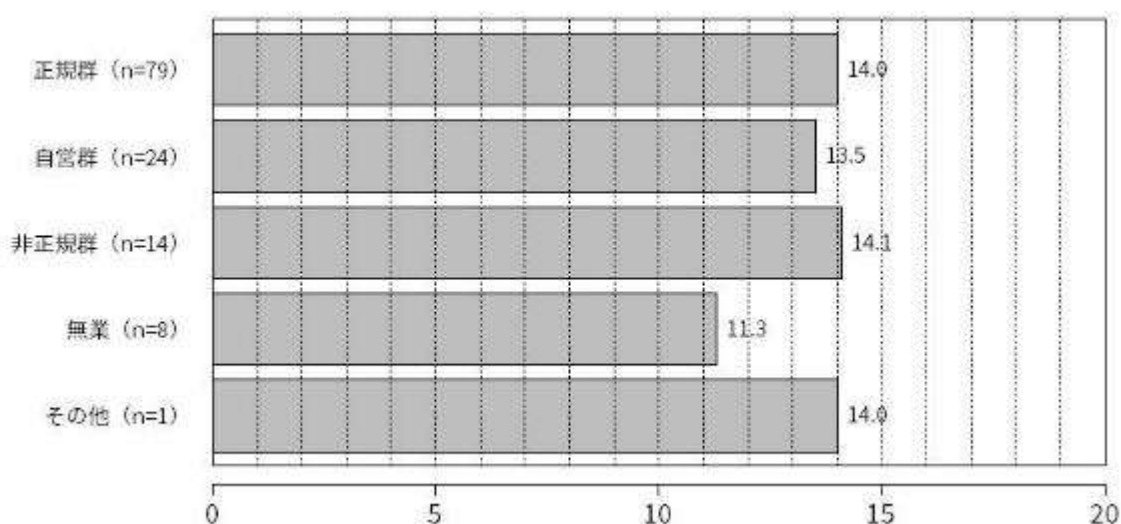


図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

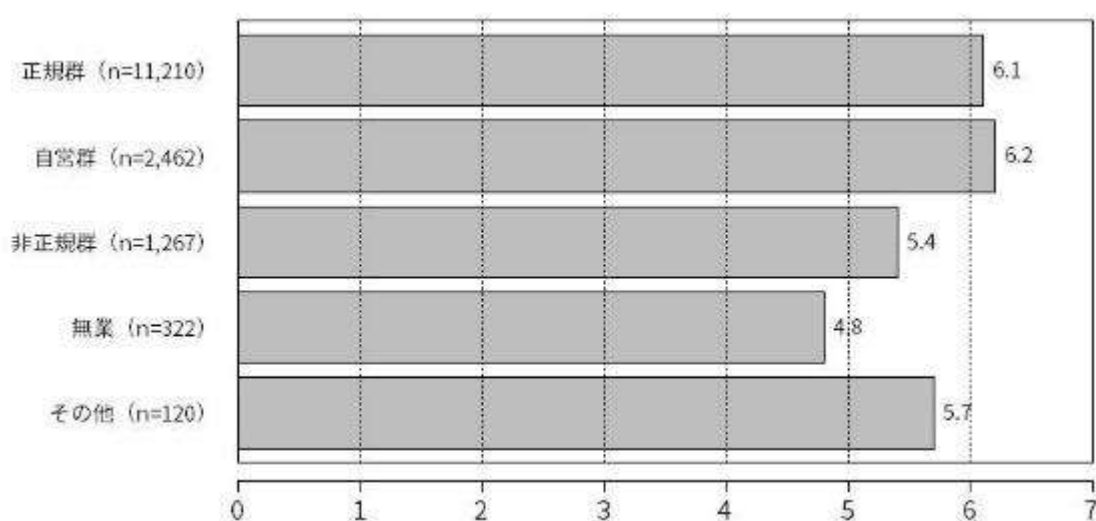
就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 14.0 点、「自営業」では 13.5 点、「非正規群」では 14.1 点、「無業」群では 11.3 点であった。



# 就労状況別に見た、支えてくれる人得点（保護者票 問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の7項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を0点、「いる」を1点とし、7項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

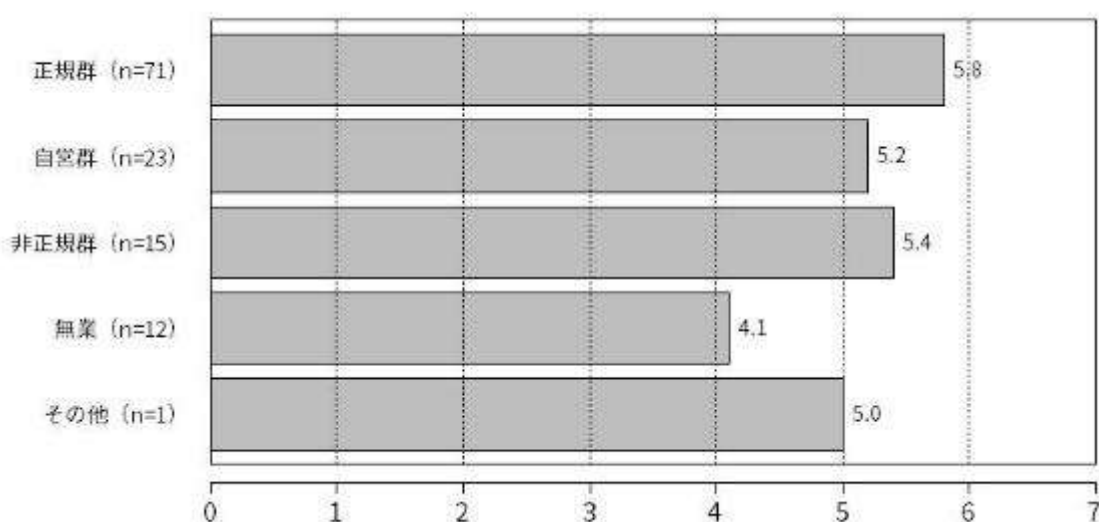
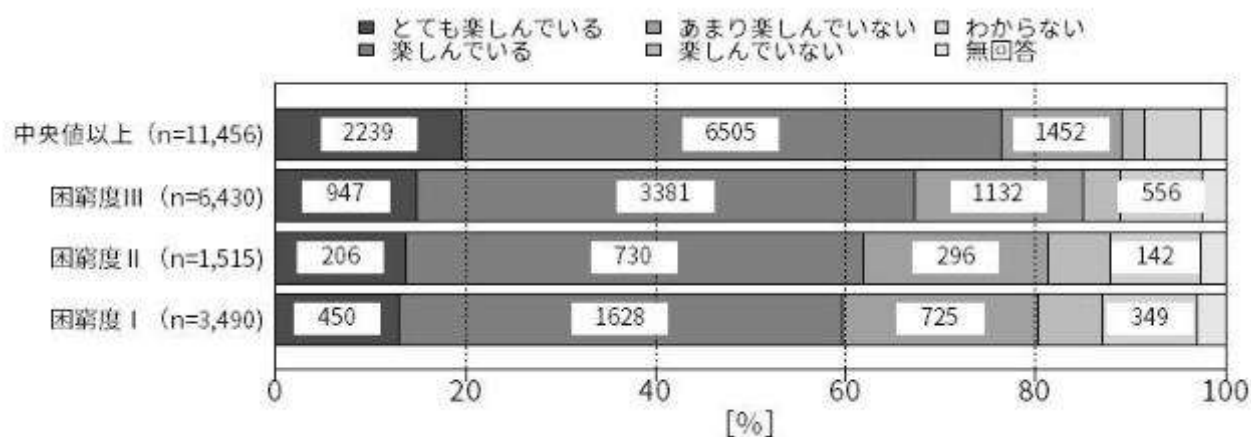


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では5.8点、「自営群」では5.2点、「非正規群」で5.4点、「無業」で4.1点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

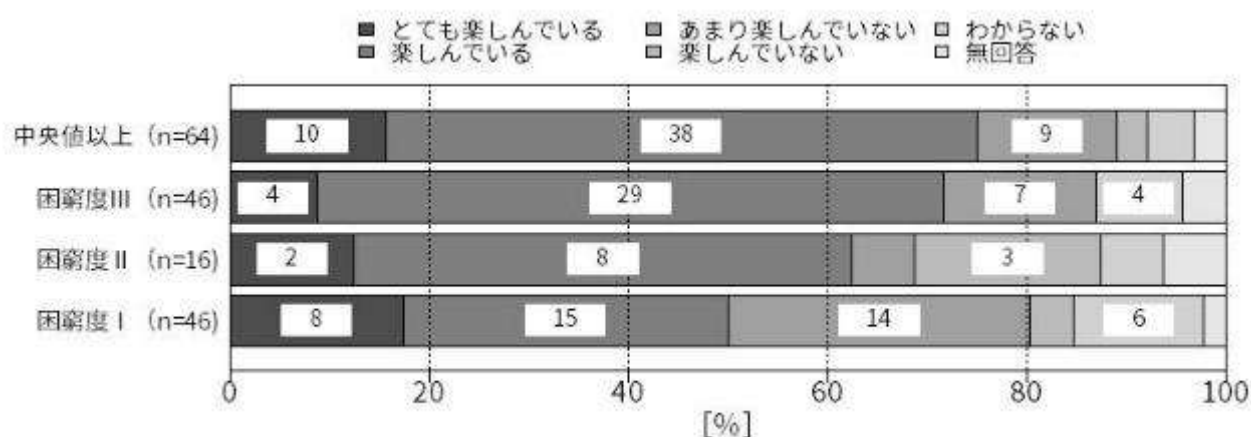
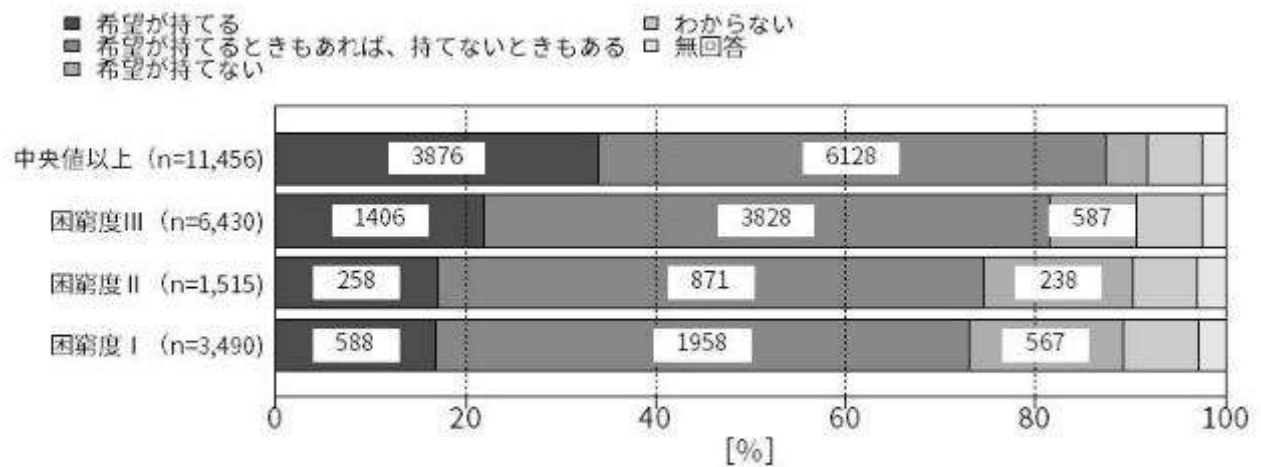


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 75.0% であり、困窮度が高まるにつれて、「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいる」と回答した割合は、中央値以上群で 3.1%、困窮度Ⅲ群で該当なし、困窮度Ⅱ群で 18.8%、困窮度Ⅰ群で 4.3%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票 問 25 (2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

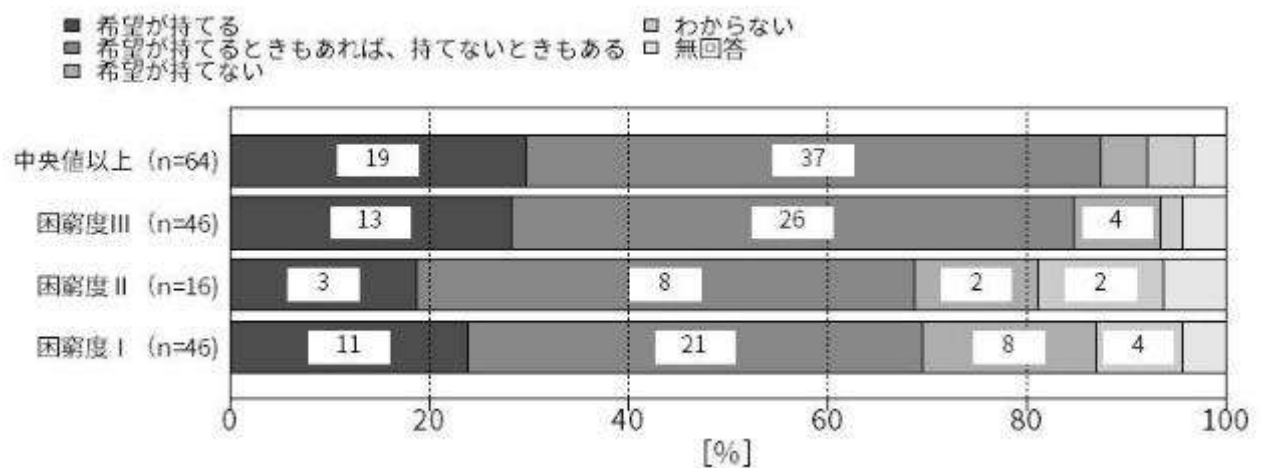
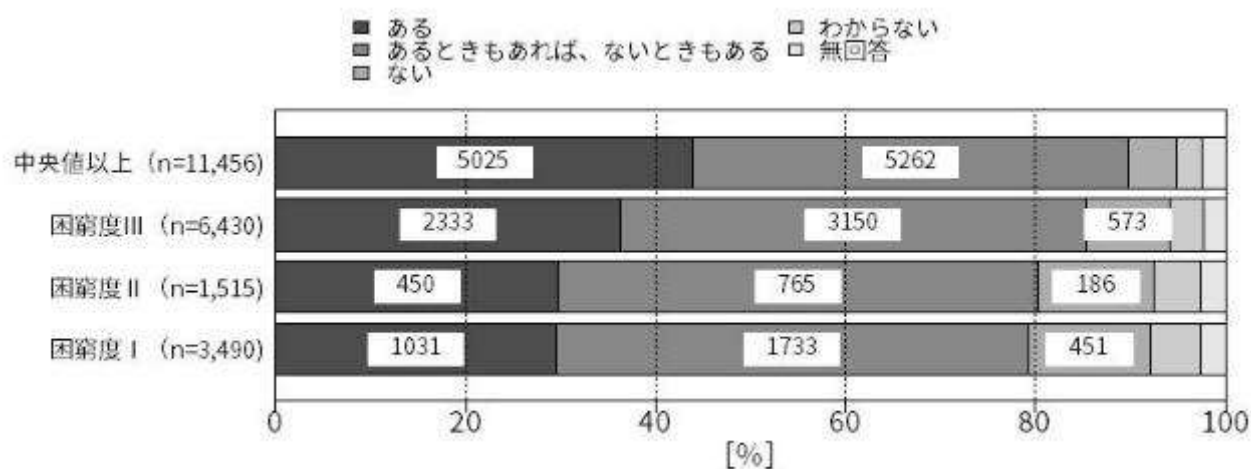


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は中央値以上群では、29.7%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では 28.3%、困窮度Ⅱ群では 18.8%、困窮度Ⅰ群では、23.9%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

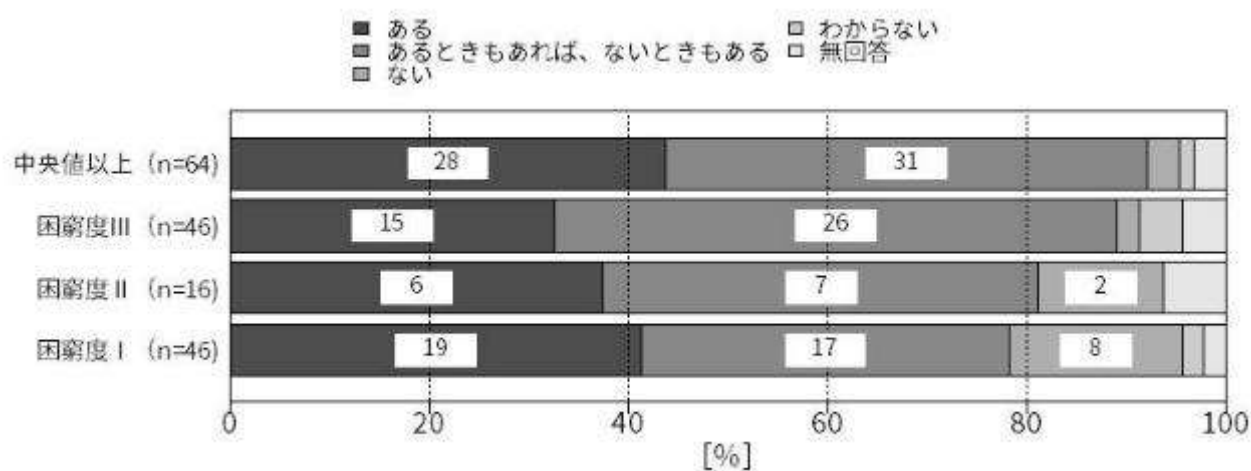
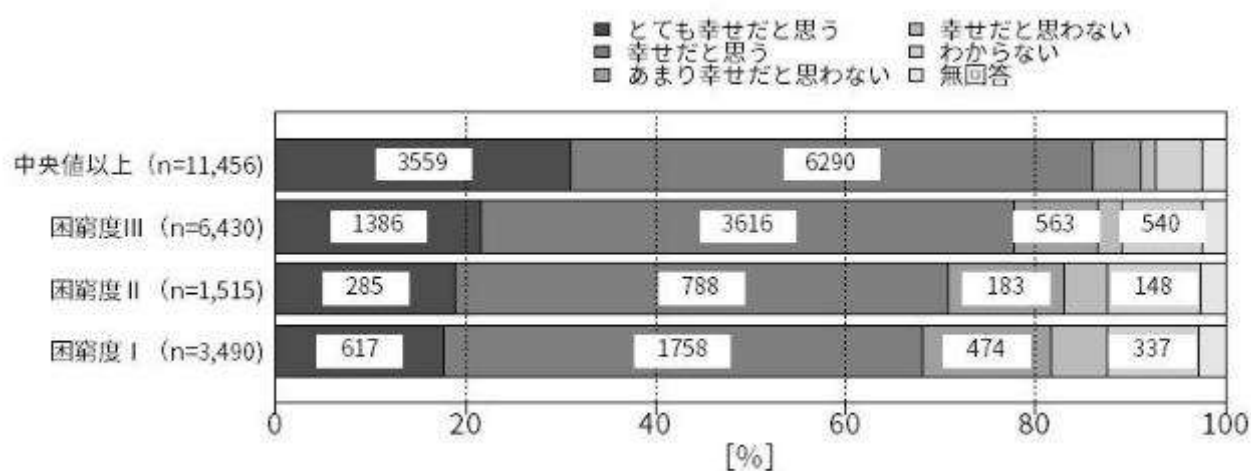


図 201. 困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、中央値以上群では 3.1 %、困窮度Ⅲ群 2.2 %、困窮度Ⅱ群 12.5 %、困窮度Ⅰ群 17.4 %となっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

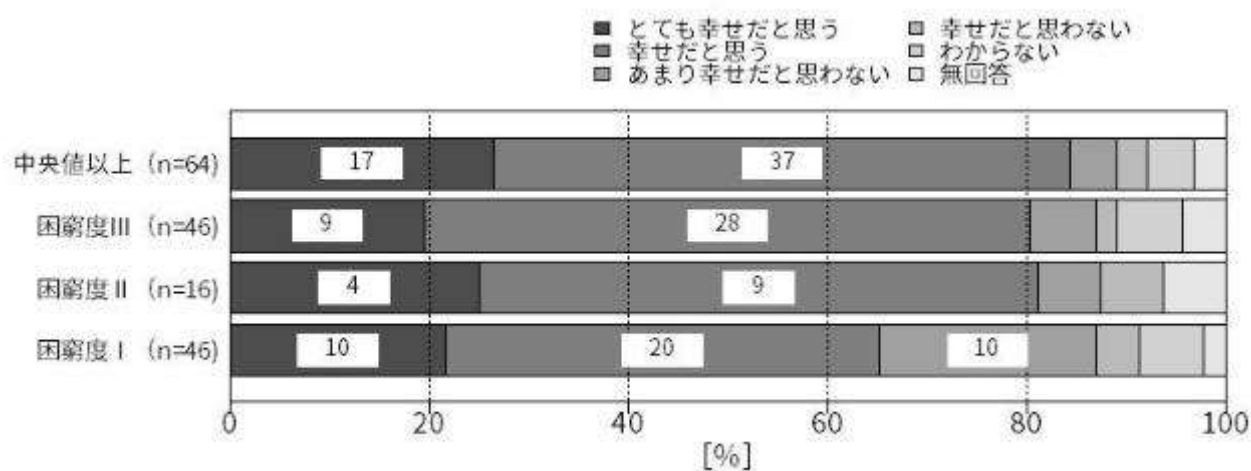
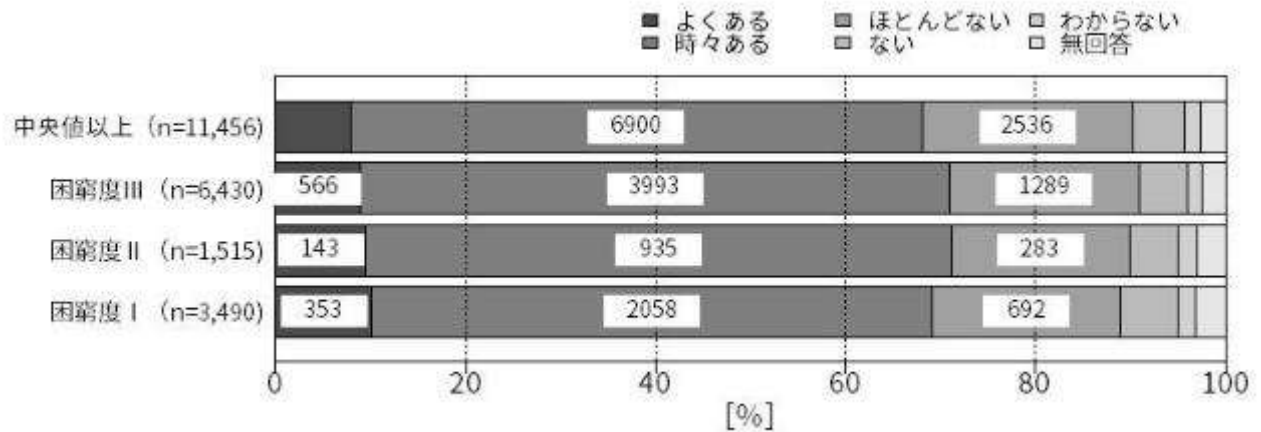


図 202. 困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」あわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」あわせた割合が高くなり、中央値以上群では 7.8 %、困窮度Ⅲ群 8.7 %、困窮度Ⅱ群 12.6 %、困窮度Ⅰ群 26 %となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
(保護者票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

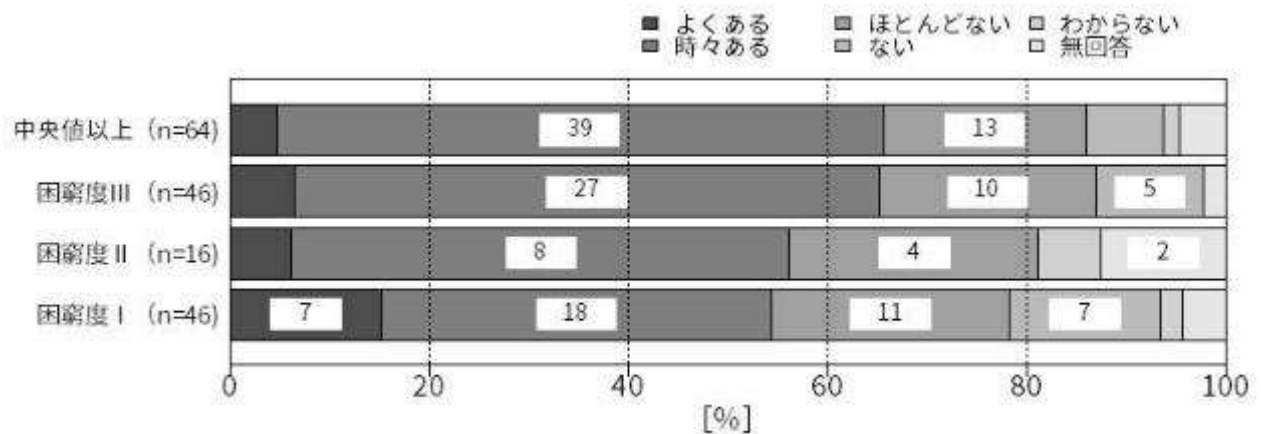
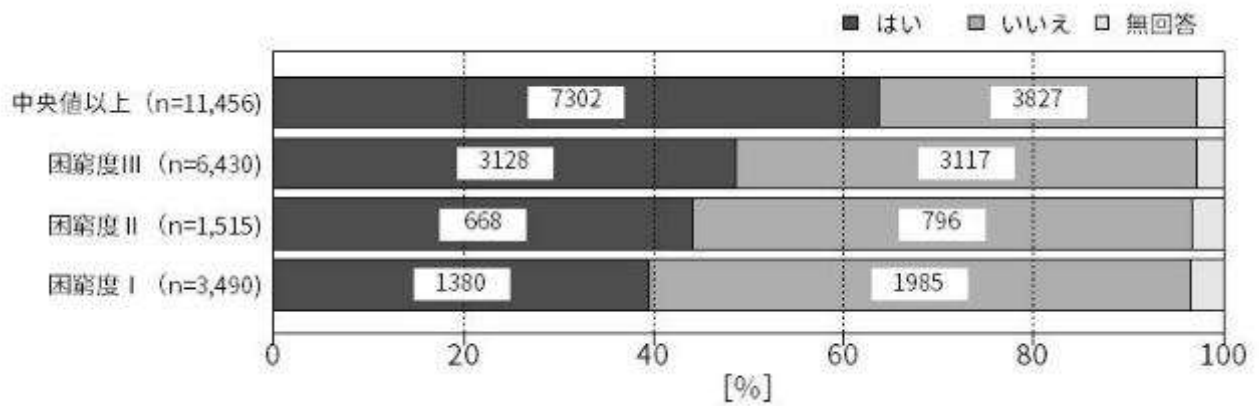


図 203. 困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、中央値以上群では、「よくある」「時々ある」あわせて 65.6 %であったのに対し、困窮度Ⅰ群では 54.3 %であった。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票 問 28）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

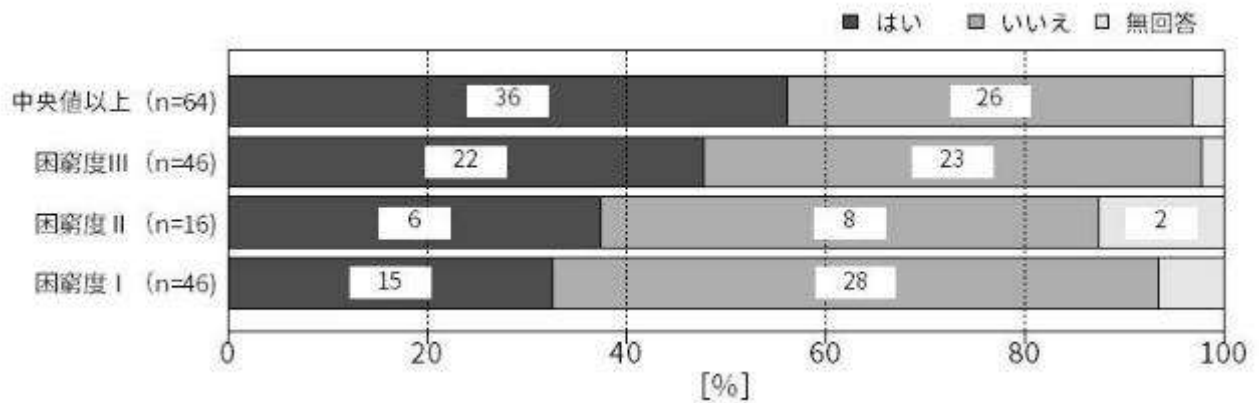


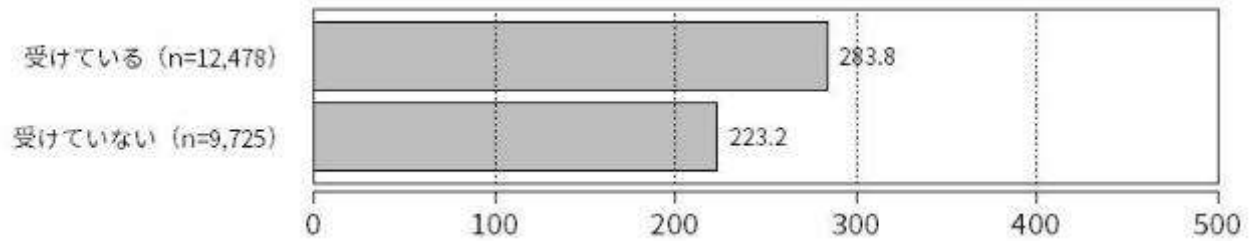
図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 56.3%であり、困窮度Ⅰ群では 32.6%であった。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

（保護者票 問 28 × 保護者票 問 7）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

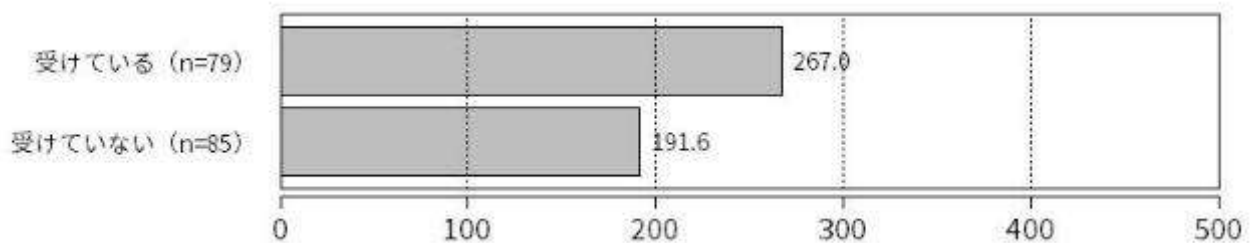


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 267 万円、「受診なし」では 191.6 万円と等価可処分所得について差が見られた。



## ＜健康に関する考察＞

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度Ⅰ群では、2.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.5であるのに対して、「週5回以下」では、17.3と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。困窮度と入浴頻度は、本区では明確な関連性が示されなかった。

困窮度別に心身の自覚症状（子ども）をみると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、「ねむれない」18.6%（中央値以上群に対して、1.7倍、「イライラする」41.9%（1.5倍）、「歯がいたい」7.0%（1.7倍）となり、困窮度Ⅰ群において高い項目が複数みられた。さらに、中央値以上群と上記の項目ほどの差はないものの、困窮度Ⅰ群では、「やる気が起きない」30.2%（1.2倍）など、心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さも無視できない。これらの心身の自覚症状が学習状況に影響を与えていることが推測される。

困窮度別に心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「よくおなかがいたくなる」10.9%（中央値以上群に対して、3.5倍、「聞こえにくい」8.7%（2.8倍）、「ものを見づらい」17.4%（2.8倍）となっている。つづいて、「不安な気持ちになる」32.6%（1.9倍）、「よく腰がいたくなる」37.0%（1.4倍）という影響もみられた。

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」、「自営業」に対して、「非正規群」群において、自分の体や気持ちで気になることの該当個数が増える結果となった。

困窮度別に将来への希望や、ストレスが発散できるものがあるか、幸福度に関する設問では、困窮度が高まるにつれて、否定的な回答の割合が高まる結果となった。

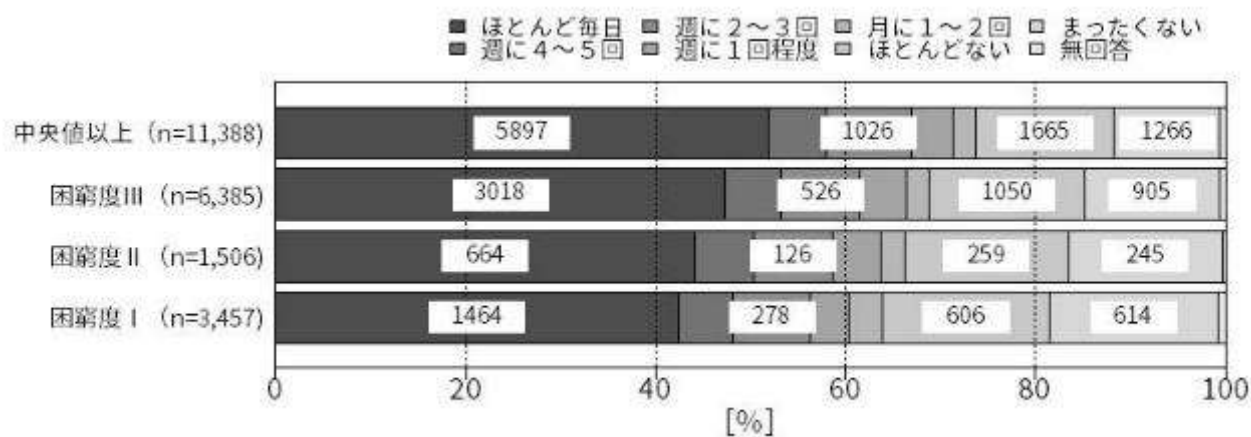
不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答する割合は、困窮度Ⅰ群が15.2%と最も高くなっている。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群がもっとも高く、困窮度が高まるにつれて、受診率が低下する傾向が見られた。定期的な健康診断を容易にする雇用環境、心理的・時間的余裕などが受診率の差に表れているといえる。

### 3-4. 家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）  
（子ども票 問10①）

<大阪市24区>



<大阪市浪速区>

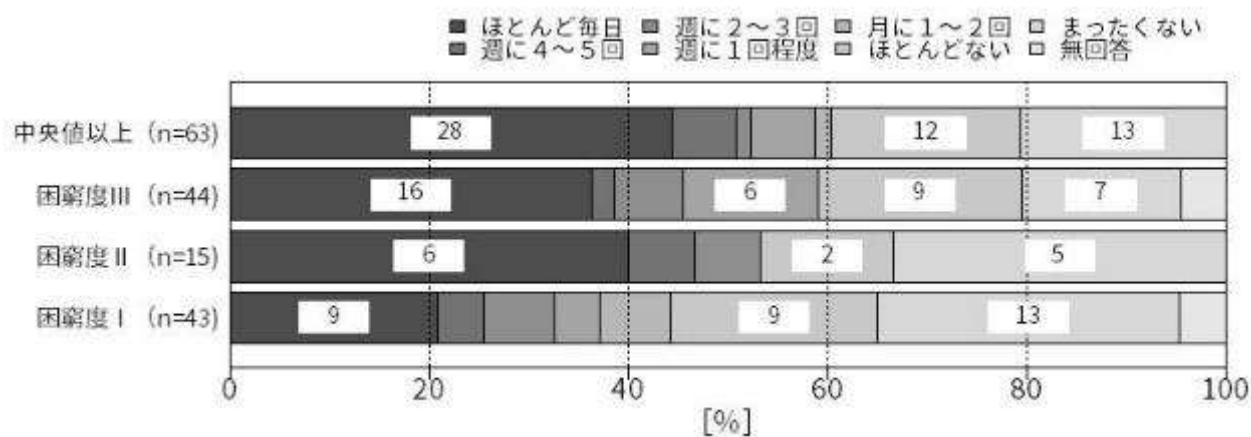
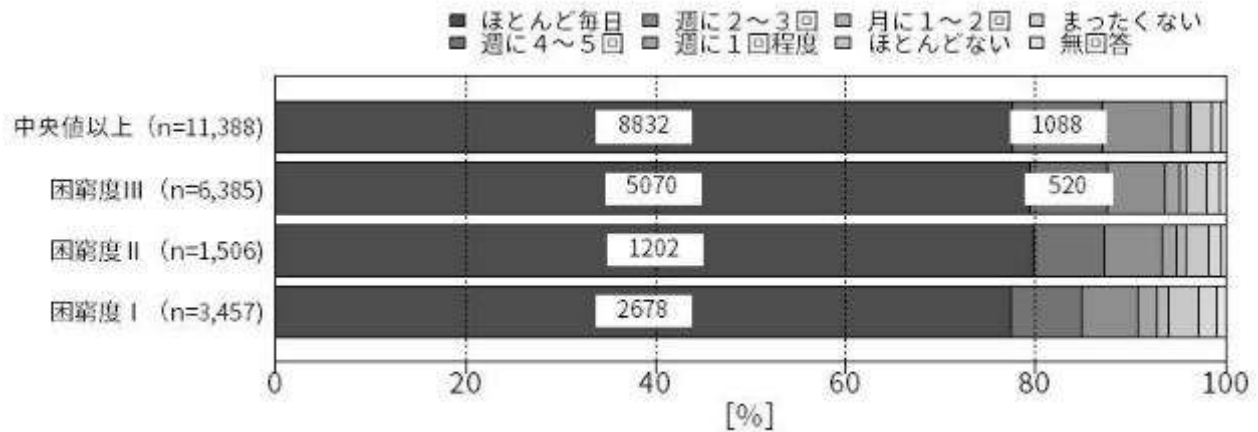


図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では、「まったくない」が30.2%、「ほとんどない」が20.9%であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）  
（子ども票 問 10②）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

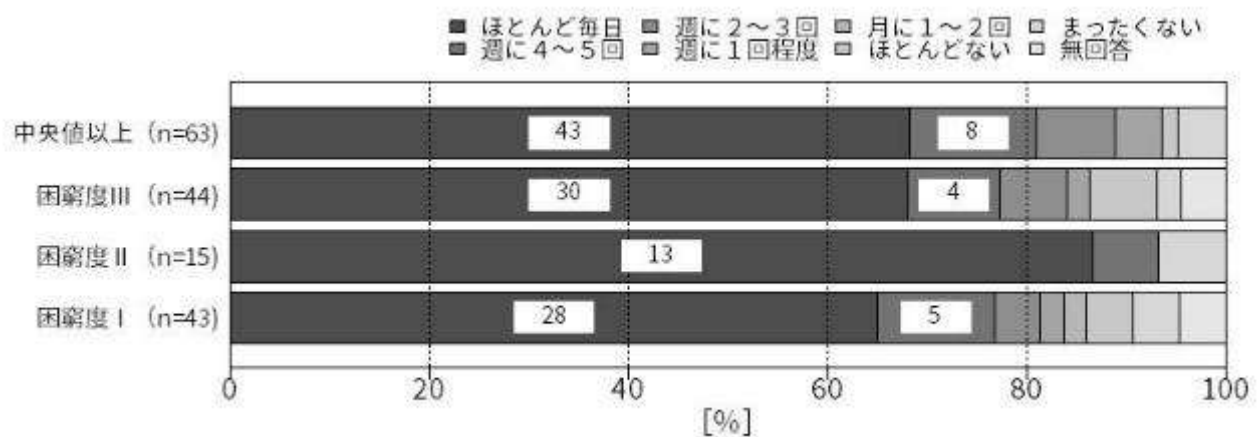
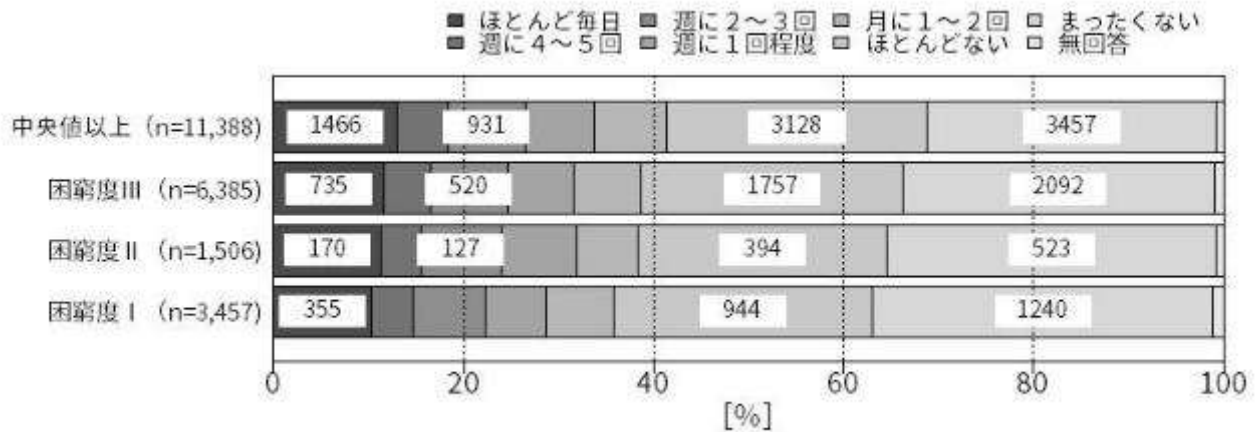


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、困窮度が高まるにつれ、「まったくない」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。中央値以上群でも「ほとんど毎日」と回答した割合は68.3%だった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）  
（子ども票 問 10⑤）

<大阪市 24 区>



<大阪市浪速区>

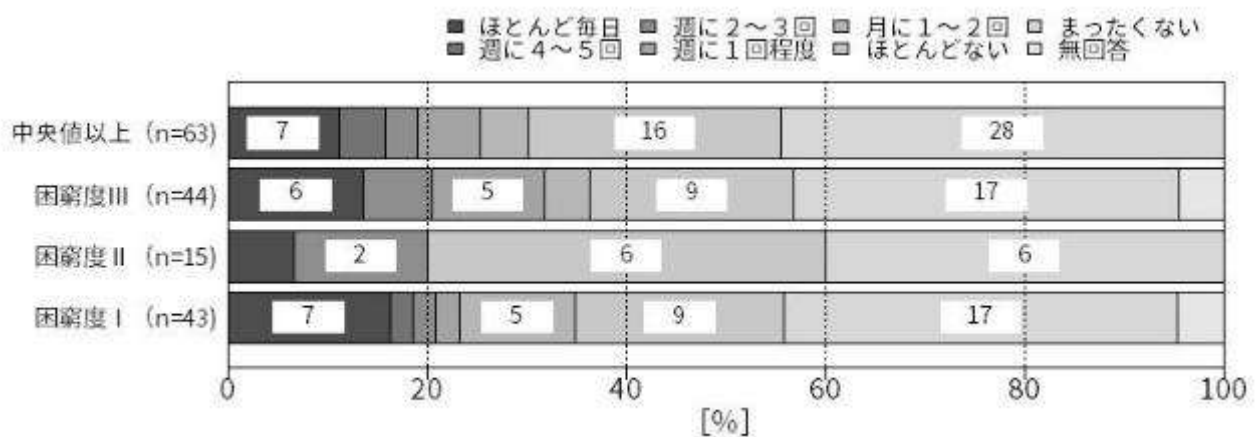


図 208. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）を見ると、困窮度によって大きな差は見られなかった。